

基本理念

Health for All, All for Health

～すべての人に健康を、健康に全力を～

基本方針

一次・二次・三次予防の包括的な健康支援

生涯を通じた健康支援

受診者第一主義の健康支援

新たな予防医学システムの構築

教育研修機関としての使命と役割

センタービジョン

これからも地域社会から選ばれ続ける予防医学施設を目指す

概 要

1. 施設概要

- (1) 名 称 日本赤十字社熊本健康管理センター
 (2) 所在地 熊本市東区長嶺南二丁目 1-1
 (3) 開設年月日 昭和 53 年 4 月 1 日
 (4) 許可病床数 19 床
 (5) 敷地面積 5,868.17 m²
 (6) 建 物



新館(北館・南館及び管理棟) 延床面積 10,626.94 m²
 竣工年月日 平成 9 年 5 月 31 日

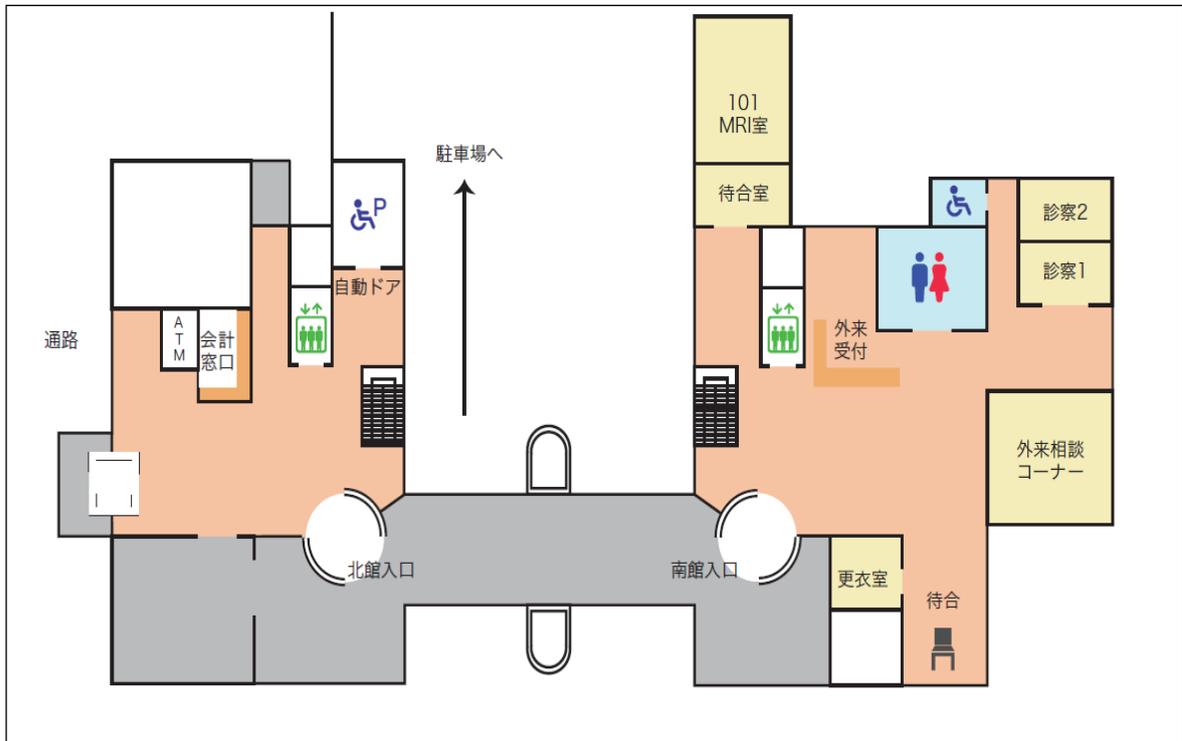
東館(元 PET-CT 診断センター) 延床面積 1,827.85 m²
 竣工年月日 平成 17 年 3 月 31 日

2. 施設認定

認定年月	認定機関	認定内容
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肺がん一次検診機関
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	胃がん精密検査機関
平成 10 年 10 月	一般社団法人日本消化器がん検診学会	認定指導施設
平成 12 年 6 月	公益社団法人全国労働衛生団体連合会 労働衛生サービス機能評価委員会	労働衛生サービス機能評価認定施設 「健康診断」「産業保健支援」
平成 17 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肝臓病認定医支援機関
平成 17 年 10 月	一般社団法人日本病院会 公益社団法人日本人間ドック学会	人間ドック・健診施設機能評価 認定
平成 22 年 5 月	一般社団法人日本脳ドック学会	脳ドック施設
平成 24 年 4 月	公益社団法人日本産業衛生学会	日本産業衛生学会研修施設
平成 25 年 4 月	公益社団法人日本人間ドック学会 一般社団法人日本総合健診医学会	人間ドック健診専門医研修施設
平成 25 年 6 月	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診施設画像認定
平成 28 年 4 月	公益社団法人日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価委員会	保健指導実施施設

3. 配置図

1階



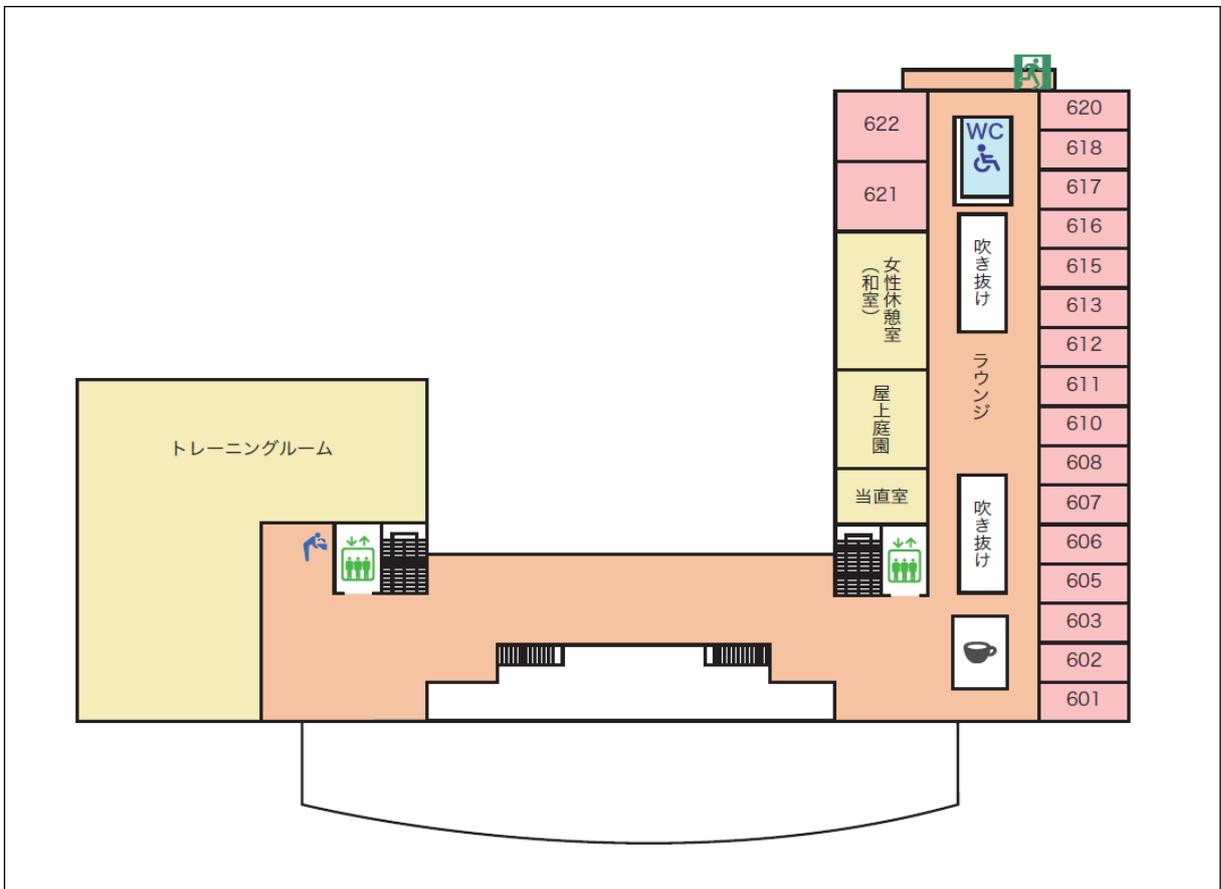
2階



5階



6階



4.施設設備

医療機器	機 材	台数	機 材	台数
	MRI 診断装置	1	超音波診断装置	14
	全身用コンピュータ断層 (ヘリカルCT) 撮影装置	1	上部消化管ビデオスコープ (胃カメラ)	26
	乳房 X 線撮影装置 (マンモグラフィ)	2	下部消化管ビデオスコープ (大腸ファイバー)	15
	胃部 X 線撮影装置	6	骨 X 線測定装置	1
	胸部 X 線撮影装置	2		
検診車	車 種	台数	車 種	台数
	胃部 X 線検診車	3	マンモグラフィ検診車	1
	胸部 X 線検診車	3	子宮がん検診車	1
	超音波検診車	8	骨密度検診車	1

5. 沿革

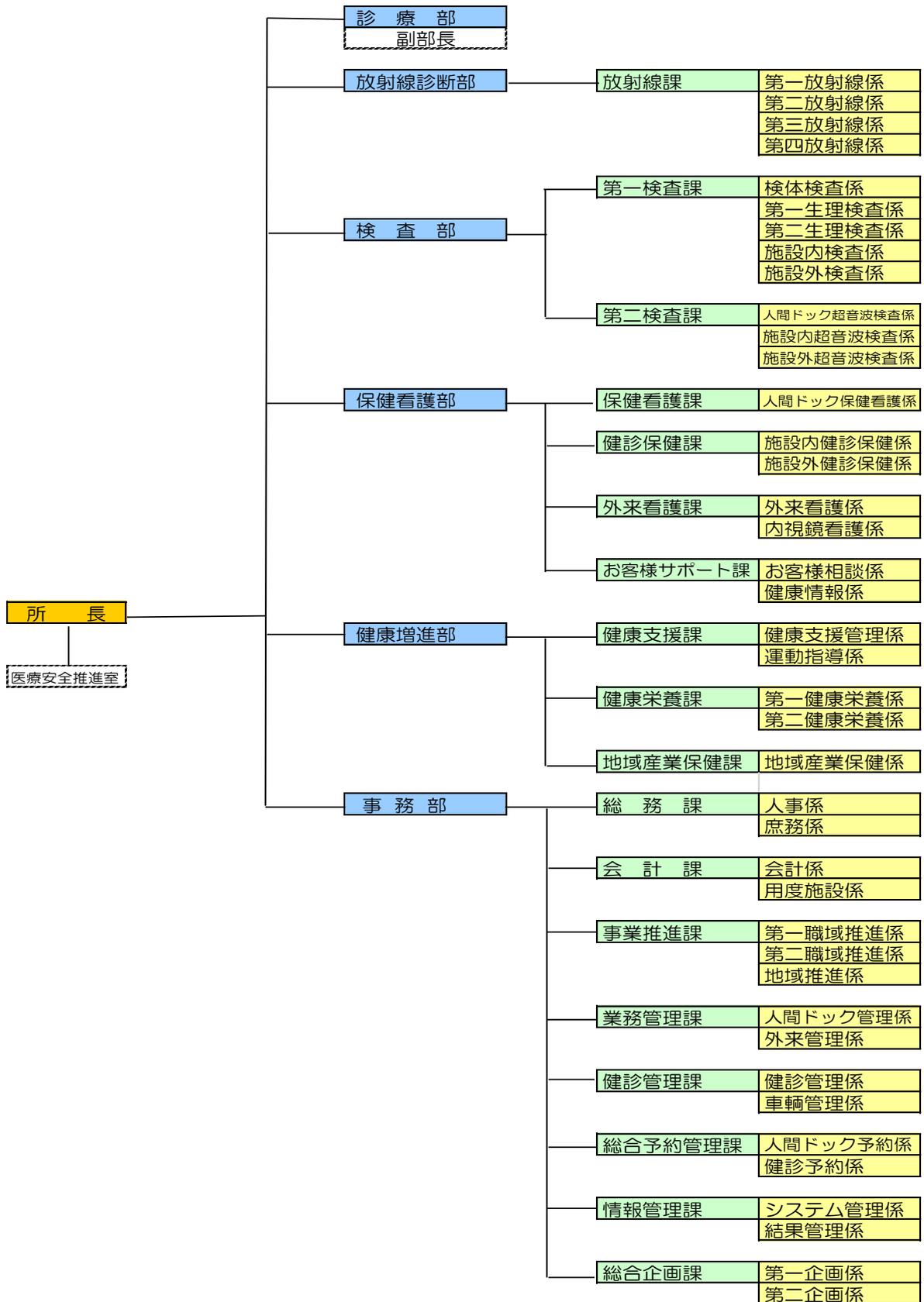
昭和 53 年	4 月	日本赤十字社熊本県支部診療所健康管理センター開設
	6 月	名誉副総裁常陸宮妃殿下御臨席のもと落成式挙行
昭和 54 年	6 月	機関誌「ハイ健康です」創刊。以降、定期的に発行
	8 月	健康管理センター増改築起工式
	10 月	日赤記念体育館（運動療法センター）起工式
昭和 55 年	3 月	健康管理センター増改築・日赤記念体育館合同落成式
昭和 58 年	5 月	健康まつり（健康管理センター5周年記念）開催
昭和 59 年	1 月	集団検診にコンピュータシステム導入
	3 月	腹部超音波を用いた集団検診開始
	12 月	健康管理センター第二次増改築工事竣工
昭和 60 年	1 月	健康管理センター別館の落成式挙行
昭和 61 年	11 月	人間ドックにコンピュータシステム導入
昭和 62 年	6 月	人間ドックの土・日コースを開始
昭和 63 年	5 月	日赤健康まつり（健康管理センター創立 10 周年記念式典）開催
平成元年	4 月	「滞在型セミナー」など健康増進活動開始
	5 月	日赤熊本県支部 100 周年記念において名誉副総裁高円宮妃殿下御来熊
平成 2 年	4 月	中央労働災害防止協会労働者健康保持増進サービス機関認定（令和 3 年末廃止）
	9 月	予防医学事業中央会「健康教育賞」受賞
平成 3 年	3 月	社会保険大会「優良事業所」受賞
平成 4 年	4 月	全国労働衛生団体連合会加盟
平成 5 年	5 月	「日本赤十字社熊本健康管理センター」に改称
	6 月	女性専門ドック（現レディースドック）開始
平成 6 年	2 月	社団法人日本病院会優良二日ドック施設認定
	4 月	財団法人産業医学振興財団職域健康診断実施機関指定機関認定
平成 7 年	4 月	中央労働災害防止協会健康診断機関名簿登録 頭部 CT 検査、循環器・消化器コース新設
平成 8 年	4 月	健康管理センター新館起工式 日本総合健診医学会優良総合健診施設認定
	8 月	第 37 回日本人間ドック学会開催熊本にて開催（事務局担当）
平成 9 年	6 月	健康管理センター新館竣工
平成 9 年	6 月	創立 20 周年記念「健康フェスティバル」開催（～8 月、4 回実施） 歯科検診・頭部 MRI コースを開始
	8 月	健康外来を新設・別館（管理棟）改築工事完了
	9 月	健康だより「日赤健康かわら版」創刊、定期的に発行（平成 24 年度末終了）
	10 月	脳専門ドック開始
平成 10 年	1 月	創立 20 周年記念式典、新館落成式
	4 月	保険医療機関指定
	6 月	保険診療業務開始
	10 月	日本消化器集団検診学会指導施設認定

平成 11 年	11 月	第 9 回日本健康医学会熊本にて開催（事務局担当）
平成 12 年	6 月	全国労働衛生団体連合会労働衛生機関評価機構施設認定
	7 月	第 10 回九州農村医学会熊本にて開催（事務局担当）
平成 13 年	1 月	日本総合健診医学会第 29 回大会 熊本にて開催（事務局担当）
	4 月	胸部 CT 検診開始
平成 14 年	2 月	日本健康・栄養システム学会第 1 回九州地方会 熊本にて開催（事務局担当）
	10 月	保健文化賞受賞 第 12 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会熊本にて開催 （事務局担当）
平成 15 年	3 月	創立 25 周年記念および保健文化賞受賞記念式典
平成 16 年	6 月	第 3 回日本健康・栄養システム学会 熊本にて開催（事務局担当）
	8 月	PET-CT 診断センター起工式
	9 月	防火対象物点検報告 特例認定（消防法第 8 条の 2 の 3 第 1 項）
平成 17 年	3 月	PET-CT 診断センター竣工
	4 月	（施設内）マンモグラフィ検診業務開始
	6 月	PET-CT 診断センター業務開始
	10 月	日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック・健診施設機能評価認定
平成 18 年	4 月	（施設外）マンモグラフィ検診業務開始
	9 月	アセテート PET 検査、メチオニン PET 検査研究開始
平成 19 年	4 月	院外処方開始 受診者会員制度「優友クラブ」発足
	11 月	日経地域情報化大賞 2007「日経産業新聞賞」受賞
	平成 20 年	8 月
平成 21 年	4 月	日本人間ドック学会・人間ドック専門医制度委員会 人間ドック専門医制度研修施設認定
平成 22 年	5 月	一般社団法人日本脳ドック学会 脳ドック施設認定
	7 月	ペースメーカー外来開設（令和 2 年 3 月 31 日で終了）
	11 月	人間ドック宿泊室リニューアル
平成 23 年	1 月	ピロリ除菌外来開設
平成 24 年	4 月	社団法人日本産業衛生学会 研修施設認定
平成 25 年	2 月	九州予防医学研究会第 14 回学術大会：熊本にて開催（事務局担当）
平成 28 年	4 月	創立 35 周年記念 「日赤健康薬膳レシピ集」 発刊
	4 月	熊本地震発生 5 日間業務停止 救援活動実施
	8 月	日本核医学会 PET サマーセミナー in 熊本 開催（大会長、事務局担当）
平成 29 年	3 月	PET-CT 診断センター 業務終了 閉鎖
	3 月	日赤健康薬膳「元気ごはん」 発刊
平成 31 年	3 月	九州予防医学研究会第 20 回学術大会：熊本にて開催（事務局担当）
令和 2 年	7 月	熊本豪雨災害発生 救護活動実施
令和 3 年	4 月	健診・人間ドックにかかる基幹システム更新

6. 組織

(1)組織図

6部18課41係 令和4年3月31日現在



(2)課別課員数

令和4年3月31日現在

部	課	正職	嘱託	臨時	パート	計
診療部		11	0	12	0	23
放射線診断部	放射線課	18	3	0	9	30
検査部	第一検査課	22	18	0	1	41
	第二検査課	20	2	0	0	22
保健看護部	保健看護部長	1	0	0	0	1
	保健看護課	8	9	2	11	30
	外来看護課	10	9	1	13	33
	お客様サポート課	7	2	0	1	10
	健診保健課	8	8	1	4	21
健康増進部	健康支援課	3	5	0	0	8
	健康栄養課	5	7	0	13	25
	地域産業保健課	6	2	1	3	12
事務部	事務部長	1	0	0	0	1
	総務課	4	3	1	2	10
	会計課	5	3	0	0	8
	事業推進課	9	5	0	0	14
	業務管理課	4	8	0	4	16
	健診管理課	7	12	2	0	21
	総合予約管理課	5	13	0	1	19
	情報管理課	6	7	0	3	16
	総合企画課	3	1	0	0	4
合計		163	117	20	65	365

(3)年齢別職員構成

令和4年3月31日現在

年 齢	職 種	医師	医療 技術職	保健師	事務職	その他	計
				看護師			
～19歳		0	0	0	0	0	0
20～24歳		0	2	0	3	0	5
25～29歳		0	9	3	9	0	21
30～34歳		0	8	12	17	0	37
35～39歳		0	8	13	20	4	45
40～44歳		2	12	9	15	1	39
45～49歳		3	16	16	11	6	52
50～54歳		2	19	19	18	12	70
55歳～		16	28	14	18	20	96
合計		23	102	86	111	43	365

(4) 役職員名簿

令和4年3月31日現在

所長	吉田 稔	名誉所長	小山 和作
		名誉所長	緒方 康博

【診療部】

診療部長	山本 恵三	診療部副部長	田中 俊一 高澤 英人 窪田 健一 家村 和千代
------	-------	--------	-----------------------------------

【放射線診断部】

放射線診断部長(兼)	山本 恵三
------------	-------

放射線課

放射線課長	宮田 貞司	第一放射線係長	江藤 清隆
		第二放射線係長	右田 健治
		第三放射線係長	川上 博則
		第四放射線係長	大久保 秀

【検査部】

検査部長	大竹 宏治
------	-------

第一検査課

第一検査課長	北川 淳一	検体検査係長	小鷹 多美
		第一生理検査係長	町原 美希子
		第二生理検査係長	松永 由紀子
		施設内検査係長	古閑 満寿美
		施設外検査係長	清田 健一

第二検査課

第二検査課長	田中 信次	人間ドック超音波検査係長	阪本 美紀
		施設内超音波検査係長	竹本 京子
		施設外超音波検査係長	山口 勝利

【保健看護部】

保健看護部長	盛川 恵美子
--------	--------

保健看護課

保健看護課長	後藤 由美子	人間ドック保健看護係長	川田 晶子
--------	--------	-------------	-------

健診保健課

健診保健課長	江口 みかる	施設内健診保健係長	小原 ひふみ
		施設外健診保健係長	岩本 奈里

外来看護課

外来看護課長	潮谷 豊美	課長補佐	西澤 美奈子
		(兼)外来看護係長 内視鏡看護係長	松下 宏美

お客様サポート課

お客様サポート課長	石本 裕美	お客様相談係長	松本 貴子
		課長補佐 (兼)健康情報係長	森元 栄子

【健康増進部】

健康増進部長	野波 善郎
--------	-------

健康支援課

健康支援課長(兼)	嶋田 真二	課長補佐	作田 麻子
		(兼)健康支援管理係長 運動指導係長	鶴田 祐一郎

健康栄養課

健康栄養課長	生山 由利子	第一健康栄養係長	吉川 美津代
		第二健康栄養係長(兼)	生山 由利子

地域産業保健課

地域産業保健課長	中野 裕美	地域産業保健係長	河野 富美香
----------	-------	----------	--------

【事務部】

事務部長	嶋田 真二
------	-------

総務課

総務課長	西山 八代	人事係長	草西 純子
		庶務係長	八田 晴生

会計課

会計課長	工藤 恭子	会計係長	黒木 豊
		用度施設係長	豊永 一秀

事業推進課

事業推進課長	島田 雅美	第一職域推進係長	若木 陽子
		第二職域推進係長	宮本 裕士
		地域推進係長	中河 美穂

業務管理課

業務管理課長	伊藤 紀代美	人間ドック管理係長	下小川 聖子
		外来管理係長(兼)	伊藤 紀代美

健診管理課

健診管理課長	森下 浩之	健診管理係長	稲葉 修一郎
		車輛管理係長(兼)	森下 浩之

総合予約管理課

総合予約管理課長	吉本 貴子	人間ドック予約係長	井上 富美子
		健診予約係長	安藤 貴子

情報管理課

情報管理課長	東 敬之	システム管理係長	古賀 智美
		結果管理係長	中野 加恵子

総合企画課

総合企画課長	永田 成子	第一企画係長	溝口 幸介
		第二企画係長(兼)	永田 成子

(5) 認定

① 医師

令和4年3月31日現在

資格・認定内容	氏名
社会医学系指導医・専門医 【社会医学系専門医協会】	野波 善郎 吉野 俊美
日本産業衛生学会指導医【日本産業衛生学会】	野波 善郎 吉野 俊美
労働衛生コンサルタント 【日本労働安全衛生コンサルタント会】	吉野 俊美
認定産業医【日本医師会】	野波 善郎 大竹 宏治 窪田 健一 家村 和千代 吉野 俊美 川口 哲 米川 幸裕 成田 和美 東 憲孝 中原 東 宮本 佳奈
人間ドック指導医【日本人間ドック学会】	大竹 宏治 窪田 健一 宮本 佳奈
人間ドック専門医【日本人間ドック学会】	大竹 宏治 窪田 健一 宮本 佳奈
人間ドック認定医【日本人間ドック学会】	大竹 宏治 窪田 健一 家村 和千代 宮本 佳奈 緒方 康博
人間ドック健診情報管理指導士 【日本人間ドック学会】	家村 和千代
遺伝学的検査アドバイザー【日本人間ドック学会】	窪田 健一 家村 和千代
総合内科専門医【日本内科学会】	宮山 祐美子 徳永 智子 宮本 佳奈 本田 佳生
認定内科医【日本内科学会】	吉田 稔 宮山 祐美子 川口 哲 成田 和美 東 憲孝 徳永 智子 中原 東 宮本 佳奈 本田 佳生 明石 隆吉
循環器専門医【日本循環器学会】	本田 佳生
消化器病専門医【日本消化器病学会】	川口 哲 成田 和美 徳永 智子 中原 東
消化器内視鏡指導医【日本消化器内視鏡学会】	川口 哲 成田 和美 中原 東 明石 隆吉
消化器内視鏡専門医【日本消化器内視鏡学会】	川口 哲 成田 和美 徳永 智子 中原 東 明石 隆吉
消化器がん検診指導医・消化器がん検診総合認定医 【日本消化器がん検診学会】	川口 哲
消化器がん検診認定医（肝胆膵） 【日本消化器がん検診学会】	大竹 宏治
消化器がん検診認定医（胃） 【日本消化器がん検診学会】	中原 東
胃腸科認定医【日本消化管学会】	宮山 祐美子
呼吸器指導医・専門医【日本呼吸器学会】	東 憲孝

資格・認定内容	氏名
放射線診断専門医【日本医学放射線学会】	富口 静二
核医学専門医【日本核医学会】	富口 静二
肺がん CT 検診認定医師【肺がん CT 検診認定機構】	東 憲孝
脳神経外科専門医【日本脳神経外科学会】	山本 恵三
産婦人科専門医【日本産科婦人科学会】	高澤 英人 家村 和千代
血液専門医【日本血液学会】	宮本 佳奈
超音波指導医・専門医【日本超音波医学会】	大竹 宏治
細胞診指導医【日本臨床細胞学会】	家村 和千代
プライマリ・ケア認定医 【日本プライマリ・ケア連合学会】	吉田 稔
検診マンモグラフィ読影医師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	高澤 英人 家村 和千代 吉野 俊美
乳腺認定医【日本乳癌学会】	家村 和千代
乳房疾患認定医【日本産婦人科乳腺医学会】	家村 和千代
日本アレルギー学会指導医(内科) 【日本アレルギー学会】	東 憲孝
がん治療認定医【日本がん治療医認定医機構】	吉田 稔
がん薬物療法専門医【日本臨床腫瘍学会】	吉田 稔
がん検診認定医師【日本がん検診・診断学会】	家村 和千代
健康スポーツ医【日本医師会】	家村 和千代
公認スポーツドクター【日本体育協会】	家村 和千代
周産期認定【日本産婦人科遺伝診療学会】	家村 和千代
ICD【日本呼吸器学会推薦】	東 憲孝
THP 健康測定医【中央労働災害防止協会】	野波 善郎
CKD（慢性腎臓病）対策推進「病診連携医」 【熊本市】	大竹 宏治 窪田 健一
肺がん検診読影医師 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	東 憲孝 富口 静二
肝臓病認定医 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	川口 哲

②医療技術者等

令和4年3月31日現在

資格・認定	人数	資格・認定	人数
胃がん検診専門技師 【日本消化器がん検診学会】	7	人間ドック健診情報管理指導士 【日本人間ドック学会】	3
胃 X 線検診読影補助認定技師 【日本消化器がん検診学会】	1	産業カウンセラー 【日本産業カウンセラー協会】	5
胃がん X 線検診基準撮影法指導員 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	2	禁煙認定指導保健師・看護師 【日本禁煙学会】	6
胃がん X 線検診技術部門 B 資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	3	消化器内視鏡技師 【日本消化器内視鏡学会】	2
胃がん X 線検診読影部門 B 資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	5	がん登録実務初級者認定 【国立がん研究センター】	2
肺がん CT 検診認定技師 【肺がん CT 検診認定機構】	3	糖尿病療養指導士 【日本糖尿病療養指導士認定機構】	4
検診マンモグラフィ撮影技術及び 精度管理認定技師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	7	熊本県地域糖尿病療養指導士【熊本 地域糖尿病療養指導士認定委員会】	28
ピンクリボンアドバイザー 【乳房健康研究会】	1	フットケアセラピストコース修了 【JRFA 日本リラクゼーションフット ケア協会】	4
第 1 種放射線取扱主任者 【文部科学省】	2	HAPPY プログラム使用権取得コース 修了【国立病院機構肥前精神医療セ ンター】	2
シニア放射線技師 【日本診療放射線技師会】	2	肝疾患コーディネーター【熊本県】	30
医療画像情報精度管理士 【日本診療放射線技師会】	2	糖尿病予防指導者 【日本歯科衛生士会】	1
放射線管理士 【日本診療放射線技師会】	2	健康運動指導士 【健康・体力づくり事業財団】	5
放射線機器管理士 【日本診療放射線技師会】	3	健康運動実践指導士 【健康・体力づくり事業財団】	1
医療情報技師 【日本医療情報学会】	2	健康経営エキスパートアドバイザー 【東京商工会議所】	1
細胞検査士 【日本臨床細胞学会】	5	健康経営アドバイザー 【東京商工会議所】	1
国際細胞検査士 【国際細胞学会】	2	診療報酬請求事務能力認定(医科) 【日本医療保険事務協会】	1

資格・認定	人数	資格・認定	人数
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了 【熊本県労働基準協会】	1	診療情報管理士 【日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神化病院協会・医療研修推進財団】	1
超音波検査士 消化器 【日本超音波医学会】	33	社会福祉士 【厚生労働省】	2
超音波検査士 体表 【日本超音波医学会】	30	第一種衛生管理者 【厚生労働省】	10
超音波検査士 泌尿器 【日本超音波医学会】	21	医療対話推進者養成研修 【日本赤十字社】	2
超音波検査士 健診 【日本超音波医学会】	2	THP ヘルスケアリーダー・ ヘルスケアトレーナー・ 心理相談指導担当者・ 産業保健指導担当者・ 産業栄養指導担当者 【中央労働災害防止協会】	各 1
超音波検査士 循環器 【日本超音波医学会】	4		
血管診療技師 【3 学会厚生血管診療技師認定機構・日本血管外科学会・日本脈管学会・日本静脈学会】	2		
認定心電検査技師 【日本臨床衛生検査技師会】	1	特定健診・特定保健指導実践者研修修了 【熊本県・協会けんぽ・栄養士会等】	65

7. 行事・出来事

(1)年間行事・出来事

月 日	行 事
4月1日	日赤熊本入社式（熊本赤十字病院）・辞令交付式（5Fホール）
4月1日～2日	日赤熊本新規採用職員研修会（熊本赤十字病院）
4月5日	新規採用職員研修会（5Fホール）
8月23日～	新型コロナウイルス職域接種開始
12月24日	消防訓練（センター）
12月28日	仕事納め式（WEB配信）
1月4日	仕事始め式（WEB配信）
2月1日～18日	令和3年度健診・保健事業担当者研修会（WEB配信）
3月1日	労働衛生サービス機能評価機構認定調査（WEB）

(2)表彰

名 称	受 賞 者
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「全衛連功績賞」	健診管理課 課長 森下 浩之
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「全衛連奨励賞」	第二検査課 人間ドック超音波検査係長 阪本 美紀
予防医学事業中央会 「奨励賞」	健康栄養課 第一健康栄養係長 吉川 美津代
	事業推進課 第一職域推進係長 若木 陽子

事業

1.令和3年度健診等事業実績

事業分類		4月	5月	6月	7月	
	総合コース	131	181	333	369	
	シニアドック	96	127	0	0	
2日ドック合計		227	308	333	369	
	標準コース	1,249	1,195	1,760	1,875	
	消化器コース	138	107	233	245	
	レディースコース	133	133	215	215	
	付加健診	36	51	124	86	
	総合健康診査	10	35	50	87	
	シニアドック・ひまわりドック	155	145	0	0	
1日ドック合計		1,721	1,666	2,382	2,508	
人間ドック事業		1,948	1,974	2,715	2,877	
	協会けんぽ生活習慣病予防健診	925	1,225	1,752	1,651	
	日赤生活習慣病健診	1,075	1,098	1,249	1,058	
	定期健診	1,610	455	73	99	
	住民健診	131	224	178	219	
	その他健診	66	159	117	109	
	施設内健診合計		3,807	3,161	3,369	3,136
	協会けんぽ生活習慣病予防健診	9	88	90	0	
	日赤生活習慣病健診	2,002	2,453	3,391	4,387	
	定期健診	215	26	86	68	
	住民健診	2,682	1,902	3,579	2,870	
	その他健診	1,351	1,376	273	227	
施設外健診合計		6,259	5,845	7,419	7,552	
健診事業		10,066	9,006	10,788	10,688	
	産業保健サポート	72	61	78	70	
	産業医事業合計		72	61	78	70
	健康セミナー (回数)	0	0	0	0	
	職員派遣(講演他) (回数)	1	0	0	0	
	その他健康増進事業 (回数)	3	1	17	9	
	保健師派遣	0	0	29	13	
	健康増進事業合計		4	1	46	22
	積極的支援	373	388	457	394	
	動機づけ支援	288	347	443	343	
	特定保健指導合計		661	735	900	737
健康支援事業		737	797	1,024	829	
	保険診療	511	407	562	479	
	自由診療	0	3	1	1	
	外来診療合計		511	410	563	480
外来事業		511	410	563	480	

(単位：人)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
327	341	401	316	241	236	268	220	3,364
0	0	0	0	0	0	54	89	366
327	341	401	316	241	236	322	309	3,730
1,742	1,751	1,753	1,755	1,745	1,608	1,484	1,800	19,717
227	239	230	207	221	195	148	123	2,313
216	209	229	196	202	183	186	153	2,270
78	86	105	92	44	47	45	55	849
136	134	116	62	29	0	0	0	659
0	0	0	0	0	0	59	163	522
2,399	2,419	2,433	2,312	2,241	2,033	1,922	2,294	26,330
2,726	2,760	2,834	2,628	2,482	2,269	2,244	2,603	30,060
1,593	1,629	1,722	1,618	1,090	943	926	817	15,891
1,795	1,711	1,218	1,293	1,285	1,051	1,443	993	15,269
99	76	98	104	182	130	113	103	3,142
212	256	335	260	473	327	417	411	3,443
129	98	160	678	373	355	101	86	2,431
3,828	3,770	3,533	3,953	3,403	2,806	3,000	2,410	40,176
37	515	269	208	426	32	378	353	2,405
4,216	1,778	2,415	1,668	1,229	1,246	591	893	26,269
8	187	417	506	8	0	4	0	1,525
4,017	4,953	5,279	3,358	2,432	46	546	0	31,664
1,021	2,519	2,211	2,120	1,472	907	531	1,382	15,390
9,299	9,952	10,591	7,860	5,567	2,231	2,050	2,628	77,253
13,127	13,722	14,124	11,813	8,970	5,037	5,050	5,038	117,429
78	66	76	75	80	71	86	85	898
78	66	76	75	80	71	86	85	898
0	0	0	1	0	6	0	0	7
0	1	0	4	1	1	0	0	8
15	28	74	33	26	8	14	7	235
37	70	51	55	39	4	7	90	395
52	99	125	93	66	19	21	97	645
379	389	457	453	416	448	451	484	5,089
352	380	476	501	402	430	420	471	4,853
731	769	933	954	818	878	871	955	9,942
861	934	1,134	1,122	964	968	978	1,137	11,485
505	519	545	492	526	423	403	512	5,884
0	0	1	2	1	0	0	0	9
505	519	546	494	527	423	403	512	5,893
505	519	546	494	527	423	403	512	5,893

2. 人間ドック事業

<概要>

総合的な健康診断として疾病の早期発見及び生活習慣病の予防・改善を目指すと共に、健康な方には、更なる健康の維持・増進を目的として基本となる標準コースに加え、消化器や婦人科を専門的に検査する各種コースを設定している。今年度からはオプションに内臓脂肪 CT 検査を追加し、数値に加え画像でも内臓脂肪量の変化が分かるようになった。また『循環器セット』の名称を『心臓・血管セット』へ変更し、受診者に検査内容を伝わりやすくした。2日ドックにおいては、胸部 CT 検査を特別料金 8,800 円（1日ドックの場合 11,000 円）と設定し受診しやすくするとともに、セット項目であった心臓超音波検査を単独オプションとして新設した。上記以外にも豊富なオプション検査で、より精度の高い検査を実施している。

また、受診当日に医師が検査結果の説明を行い、専門職（保健師・看護師・管理栄養士・運動指導士）による生活習慣改善のための健康支援サービスを併せて実施している。

令和 3 年度の間人間ドック受診者数は 30,060 人であった。

(1)人間ドック

①1日人間ドック

1) 標準コース

日本人間ドック学会が定めた基準検査項目に、肝機能や膵機能検査などの重要な検査項目を追加して内容の充実を図っている。

2) 消化器コース

1日ドック標準コースの検査項目に、大腸内視鏡(S状結腸)検査や上部消化管内視鏡検査、胃がんに行進しやすいといわれる萎縮性胃炎の程度を調べるペプシノゲン検査と胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ検査など消化器系の検査を追加し、より充実した内容となっている。

3) レディースコース

1日ドック標準コースに加え、女性特有の疾患の検査（子宮頸部がん検査、HPV 検査、経膈超音波、乳房・甲状腺超音波、マンモグラフィ）を専門的に行うコースである。婦人科医をはじめとした専門スタッフを配置して疾病の早期発見と予防に努めている。

②2日人間ドック

1) 総合コース

1日人間ドックの標準コースの検査項目に大腸内視鏡(S状結腸)検査、負荷心電図(エルゴメーター)や糖負荷試験のほか、口腔内検診、体力測定、視野検査を実施している。また個人のニーズに合ったオプション検査(全大腸内視鏡検査・頭部MRI+MRA検査・子宮頸部がん検査・乳房超音波・甲状腺超音波等)も選択ができ、今年度からは心臓超音波検査もオプション検査に追加し更に充実した内容を実施する総合的な人間ドックである。

(2)総合健康診査

市町村住民を対象に、特定健康診査、各種がん検診（胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・肺がん）、その他腹部超音波検診や骨密度検査・歯周疾患検診、肝炎ウイルス検査などを組み合わせ、人間ドック形式で実施する総合型健康診断である。近年では、胸部 CT 検査・前立腺がん検診（PSA 検査）なども組み合わせて実施している。

(3)「優友クラブ」会員制

平成 19 年度に発足した優友クラブは、市町村や健康保険組合などからの受診料金の助成を受けずに全額自己負担でご利用の方を対象とし、人間ドックを定期的に受診することにより、自己の健康状態の把握と健康維持増進を図っていただくことを目的としている。「優友クラブ」の名称には会員の健康管理に対して、当センターが優れた友でありたいという願いがこめられている。入会後は人間ドックを会員料金で利用できるほか、当センターが発行する健康情報誌などの提供を受けることができる。

会員数 1,850 人（令和 4 年 3 月末）

(4)シニアドック

年齢に合った検査項目の人間ドックを受診しやすい料金で実施し、シニア層の健康づくりを支援している。

期 間 募集は令和 3 年 12 月～令和 4 年 3 月末、実施期間は令和 4 年 2 月～5 月末

内 容 1 日・2 日人間ドック

対 象 者 62 歳以上の方（ただし、市町村やお勤め先の健康保険、団体などからの補助を受けない方）

(5)赤十字ひまわりドック

赤十字の福祉事業の一環として、体の不自由な方を対象に受診しやすい料金を設定し、ご本人と付き添いの方がともに毎日を健康に過ごしていただくことを目的に実施している。

期 間 令和 4 年 2～3 月（月～金曜日）

内 容 1 日人間ドック

対 象 者 身体障害者手帳（障害等級 1 級～4 級）、療育手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方（ただし、市町村やお勤め先の健康保険、団体などからの補助を受けない方）

(6)けんこう応援ドック(単年度事業)

熊本地震後、復興途中の熊本県民の皆さんに人間ドックを受診しやすい料金で心身をチェックしていただき健康をサポートすることを目的に実施している。

期 間 募集は令和 3 年 12 月 1 日～、実施期間は令和 4 年 2 月～3 月

内 容 1 日・2 日人間ドック

対 象 者 熊本県内在住、または県内勤務の 61 歳以下の方（ただし、市町村やお勤め先の健康保険、団体などからの補助を受けない方）

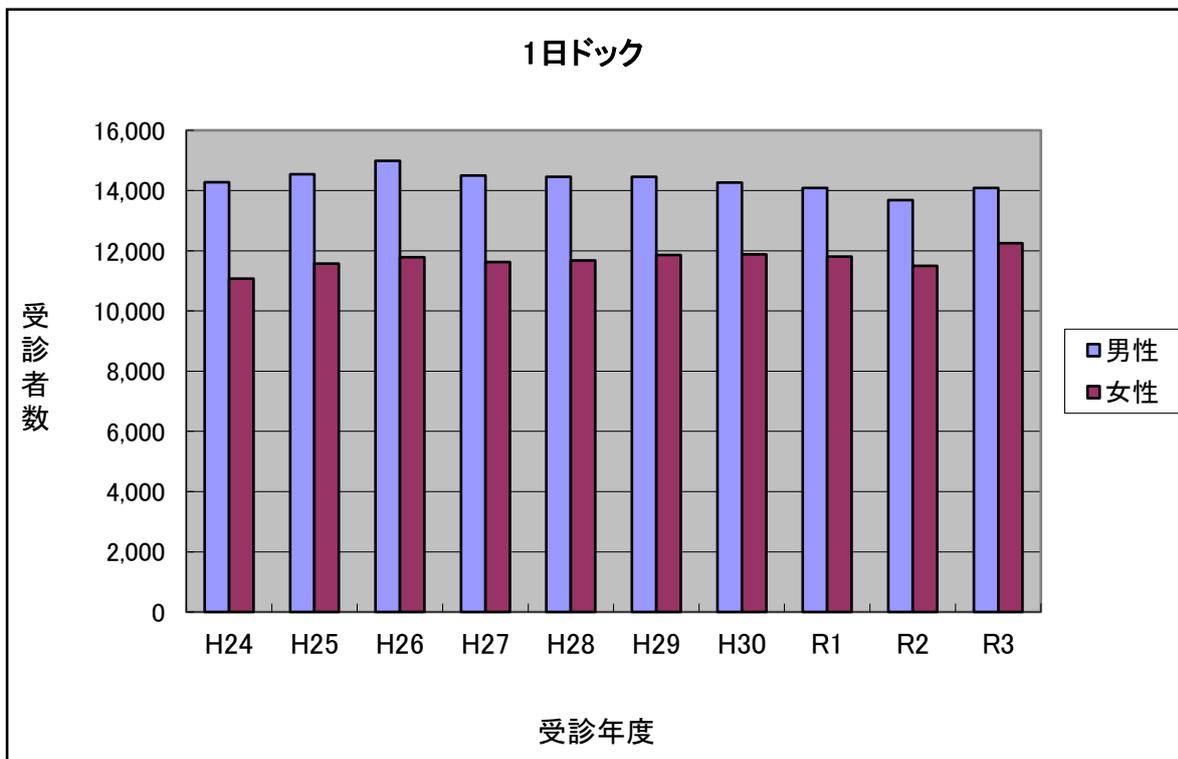
受診者数 82 名

<成 果>

(1)ドック受診者数推移【性別】(過去 10 年間)

①1 日人間ドック

1 日人間ドック受診者数は、26,330 人（男性 14,084 人、女性 12,246 人）、前年比 1,156 人の増加であった。新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えから減少傾向にあったが、前年度に比べ全体的に大幅な増加となった。

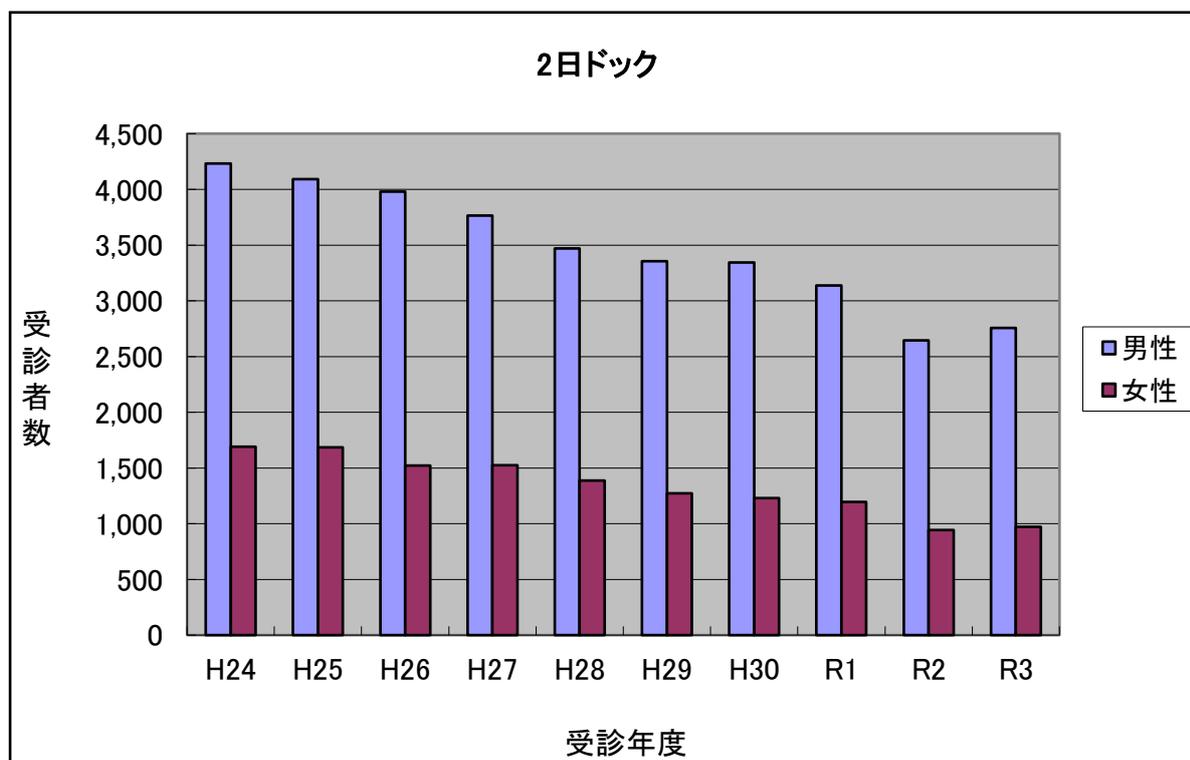


(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
男性	14,275	14,543	14,985	14,496	14,459	14,461	14,270	14,080	13,681	14,084
女性	11,077	11,572	11,779	11,626	11,678	11,857	11,884	11,803	11,493	12,246
合計	25,352	26,115	26,764	26,122	26,137	26,318	26,154	25,883	25,174	26,330

② 2日人間ドック

2日人間ドック受診者は、3,730人（男性2,757人、女性973人）、前年比140人の増加であった。ここ数年減少傾向が続いているが、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の普及により、前年度に比べると増加したものの引き続き厳しい状況である。



(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
男性	4,231	4,092	3,980	3,764	3,471	3,356	3,344	3,139	2,646	2,757
女性	1,691	1,684	1,522	1,524	1,388	1,272	1,231	1,194	944	973
合計	5,922	5,776	5,502	5,288	4,859	4,628	4,575	4,333	3,590	3,730

(2)ドック受診者数内訳<年齢別>**① 1日人間ドック**

(人)

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	56	1,464	3,843	4,297	3,087	1,167	170
女性	43	1,275	3,689	4,029	2,353	772	85
合計	99	2,739	7,532	8,326	5,440	1,939	255

② 2日人間ドック

(人)

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	7	173	607	768	621	499	82
女性	2	48	170	255	238	226	34
合計	9	221	777	1,023	859	725	116

(3)ドック受診者数内訳<コース別>**① 1日人間ドック**

(人)

1日人間ドック			
標準コース	消化器コース	レディースコース	付加健診
19,717	2,313	2,270	849
総合健康診査	シニアドック	ひまわりドック	
659	503	19	

② 2日人間ドック

(人)

2日人間ドック	
総合コース	シニアドック
3,364	366

(4)新規・再来受診者数<個人・団体別>**① 1日人間ドック**

(人)

	新規		再来		計
個人	135	19.7%	551	80.3%	686
団体	3,453	13.5%	22,191	86.5%	25,644
合計	3,588	13.6%	22,742	86.4%	26,330

② 2日人間ドック

(人)

	新規		再来		計
個人	64	21.2%	238	78.8%	302
団体	513	15.0%	2,915	85.0%	3,428
合計	577	15.5%	3,153	84.5%	3,730

3. 健診事業

<概要>

健診事業は、施設内健診と検診車で移動して実施する施設外健診に分けられる。

施設内健診では主として、協会けんぽ管掌健康保険加入者を対象とした一般健診、労働安全衛生法に基づく事業所健診、受診券を利用した特定健康診査などを行う。

施設外健診では、上記に加え、県内を中心とした地域へ出向く住民健診や学校検診などを実施した。

<動向>

令和3年度は、健診事業において前年度の受診者数減少から増加を見込み、ICTの一環として一部の団体でWEB予約を導入した。それにより受診される方お一人おひとりの滞在時間の減少など効率良く検査にご案内出来るようになった。また、確実な受診者数の把握が可能となりスタッフの効率的な業務に繋がった。

施設内健診においては、前年度に比べて新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、受診率は増加傾向にあった。令和3年度よりSMS（ショートメールサービス）を活用し受診2週間前に日程通知の送信を始め、当日キャンセルの減少や事前準備を促す事で来所後スムーズに検査にご案内できるようになった。

新型コロナウイルス感染症予防対策においては、受付時間を細分化し、時間当たりの人数を少なくする事や混雑していても待合の椅子の間隔を十分取る事で検査フロアが密にならないよう受診しやすい環境を整えている。また、新システム導入に伴い受付方法を変更し、令和3年度から熊本市がん検診と他の健診項目との同時受診が可能となり、健診を一度に受診していただく事が出来るようになった事で健診の効率化を実現した。

施設外健診においても、前年度に引続き、会場に案内する人数制限や換気・消毒、スタッフのアイシールド着用など新型コロナウイルス感染防止対策に努めた。また、各現場における感染対策確認のため「感染予防チェックシート」を新たに設けて、スタッフ間の意識付けを徹底した。

<成果>

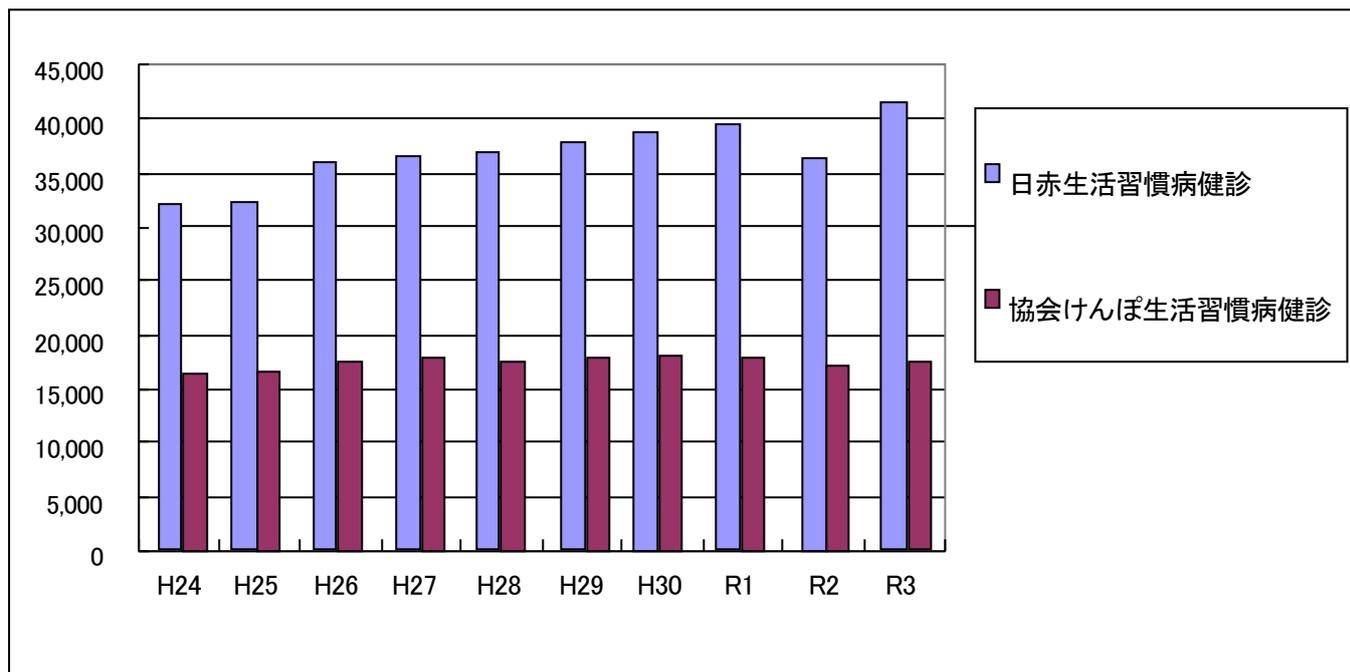
令和3年度の施設内健診は総計で40,176人を実施した。

住民健診では、主に熊本市の特定健診とがん検診を受入れている。事業所においては、協会けんぽ管掌健康保険生活習慣病予防健診（以下「協会けんぽ健診」という。）と生活習慣病健診などを受入れているが、とくに35歳未満の方の定期検診については、各事業所担当者と調整をはかり、その内容の充実に力を入れている。

施設外健診では、県下の地域、職域を巡回し、総計で延べ77,253人を実施した。

施設内健診同様、事業所については、35歳未満の方の定期検診の内容充実に力を入れ、生活習慣病健診へと誘導を図った。

(1)健康診断受診者数推移(過去10年間)



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
日赤生活習慣病健診	32,083	32,185	35,749	36,505	36,739	37,683	38,767	39,512	36,595	41,538
協会けんぽ健診	16,328	16,564	17,399	17,815	17,439	17,826	18,178	17,991	17,145	17,781

(2)施設内健診

①協会けんぽ健診

<概要>

協会けんぽ管掌健康保険被保険者の生活習慣病早期発見及び健康管理に対する意識向上を図り、健康増進に役立てることを目的に実施している。

協会けんぽ健診の特徴としては、生活習慣病予防健診（一般健診）、付加健診（ドック）、乳がん・子宮頸がん検診、肝炎ウイルス検査があり、さらに全国健康保険協会の保健師による特定保健指導の個別相談や集団学習を無料で実施するなど総合的な健診である。

協会けんぽ管掌健康保険加入者健診の実績数

(人)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生活習慣病予防健診（施設内健診）	15,205	14,852	15,377
〃（施設外健診）	2,099	2,293	2,404
生活習慣病予防健診（人間ドック）	5,554	5,473	5,729
付加健診	1,082	720	849
子宮頸がん検診（単独検診）	687	548	515

1)生活習慣病予防健診(一般健診)

35歳以上75歳未満(当該年度75歳に達する方については誕生日の前日まで)の被保険者を対象とする。

2)付加健診

対象年度中に40歳・50歳になる被保険者を対象とする。

40歳とは、昭和56年4月2日～昭和57年4月1日に生まれた方

50歳とは、昭和46年4月2日～昭和47年4月1日に生まれた方

3)乳がん・子宮頸がん検診

1)乳がん・子宮頸がん検診

一般健診を受診する方で当該年度において、40歳以上の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

2)子宮頸がん検診(単独検診)

当該年度において、20歳以上40歳未満の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

②労働安全衛生法に基づく事業所健診

協会けんぽ健診対象外の方について、労働安全衛生法で定められた項目に独自の検査項目を追加した日赤生活習慣病視力聴力健康診断を事業所健診として実施している。

③特定健康診査

平成20年4月から国の医療制度改革により、生活習慣病を改善し医療費適正化を図るためメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導が医療保険者に義務づけられた。当センターは人間ドック学会や全国労働衛生団体連合会等との集合契約に参加し、令和3年度は特定健康診査(集合契約)を1,469人実施した。

「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)」に着目した保健指導の対象者となるかどうかを判断するための健診であり、40歳から74歳までの公的医療保険加入者全員を対象としている。

<特定健康診査項目>

質問票	服薬歴や喫煙習慣など 22 項目
身体計測	身長・体重・BMI・腹囲測定
理学的診察	
血圧測定	
血液検査	脂質検査（中性脂肪・HDL-C・LDL-C） 血糖検査（空腹時血糖またはHbA1c） 肝機能検査（ γ -GTP・ALT(GPT)・AST(GOT)）
尿検査	尿糖・尿蛋白

<詳細健診項目> 医師の判断により実施する項目である。

貧血検査	赤血球数・血色素量・ヘマトクリット値
心電図検査	12 誘導心電図
眼底検査	キースワグナー分類
腎機能検査	血清クレアチニン、推算 GFR 値

④セレクト健診

お客様の多様化するニーズに対応するため、希望の項目のみを単項目で受診できるよう平成 26 年 11 月から実施している。令和 2 年度からは受診可能日を拡大し、より受診しやすい環境を整備した。

<セレクト健診検査項目一覧>

検 査 項 目	
頭部 MRI+MRA	マンモグラフィ+乳房超音波
胸部 CT	マンモグラフィ
甲状腺超音波+血液	乳房超音波
腹部超音波	子宮頸部細胞診
内臓脂肪 CT	子宮頸部細胞診+HPV
頸動脈超音波	経膣超音波
骨密度検査	

(3)施設外健診

①職域健診

職域健診は、職場で働く人が健康で生き生きと働けるように健康状態を継続的に把握し、健康を保持、増進させ生活習慣病を予防することが目的である。また、職場環境におけるメンタルヘルス対策、メタボ対策などの指導も義務づけられるようになった。

「高齢者の医療の確保に関する法律」により医療保険者に義務づけられている特定健康診査及び行政指導による特殊健康診断（作業健診）、情報機器（VDT）健康診断、更に事業所が独自で実施するがん検診（腹部超音波、大腸がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん）を実施している。

全国労働衛生団体連合会が実施している「総合精度管理事業」にも積極的に参加し、労働衛生サービス機能評価も受け、精度の高い信頼できるデータ提供に努力している。

平成 27 年 12 月から施行のストレスチェック制度は、労働者のストレスの状況について定期的に検査を行い、自らのストレスの状況について気付きを促し、個人のメンタルヘルス不調のリスクを低減させるとともに、検査結果を集团的に分析し、職場環境の改善につなげる制度である。従業員 50 名以上の事業所に対し実施が義務づけられ、当センターにおいても、おもに 50 名以上の事業所を対象に 52 事業所実施した。

②地域健診

職域健診同様、特定健康診査と熊本県後期高齢者医療広域連合条例に基づく後期高齢者健康診査を実施している。

がん検診等については、市町村に努力義務としている「健康増進法」に基づき実施している。市町村によっては平成 21 年度からがん検診推進事業として子宮頸がん及び乳がん検診、更に平成 23 年度からは大腸がん検診の無料クーポン券が配付され、更なる受診率やがん発見率の向上に取り組まれた。

当センターも、特定健診とがん検診をできる限り同日に実施し、また、受診もれの方々を後日実施できるよう日程調整するなどの取り組みで受診率向上に努めている。

<地域健診検査項目一覧>

健 診 項 目
胃部 X 線
胸部 X 線
喀痰細胞診
便潜血検査（2 日法）
子宮頸部細胞診
乳房超音波
マンモグラフィ
腹部超音波
腫瘍マーカー（PSA）
甲状腺超音波
肝炎ウイルス検査（HBs 抗原・HCV 抗体）
歯周疾患検診
骨粗鬆症検診

③その他の検診(学校検診)

一般財団法人熊本県健康管理協会の委託により学校検診を実施した。学校における健康診断は、学校保健法により結核の有無、心臓の疾患及び異常の有無を検査する。熊本県下の小学校1校、中学校3校、高等学校4校で行った。

<実施状況>

学校名	人数	
	心臓検査	胸部X線
文徳高校	405	405
文徳中学校	20	-
熊本中央高校	268	-
熊本学園大附属高校	442	-
熊本学園大附属中学校	86	-
熊本国府高校	390	-
熊大附属小学校	106	-
熊大附属中学校	160	-
計	1,877	405

<心電図検査・胸部X線検査>

実施方法

- 1) 4月中旬から5月下旬までに各学校において一次検査(標準12誘導心電図)を実施
- 2) 検査会場にて直ちに専門医のもとで一次スクリーニングを実施。必要者には心音聴診を行ったうえで精密検査者を決定
- 3) 胸部X線検査撮影(文徳高校のみ)
- 4) 精密検査は、当センター外来で実施
- 5) 精密検査終了後、結果と管理区分表を学校へ送付

4. 健康支援事業

<概要>

包括的な健康支援を目的とし、「健康づくりサイクル」見（診）る（人間ドック・健康診断）→知る（再検査・精密検査）→気づく（保健相談）→変わる（生活改善）を様々な角度からサポートをしている。また、専任スタッフ（保健師・管理栄養士・運動指導士）による特定保健指導を中心とした保健指導事業の他、産業保健サポートサービス、健康セミナー等のプログラムの企画・実施、さらにテレビ・新聞等マスメディアにも対応し、広報活動も行っている。

また、ホームページやYouTube等を活用し、運動や栄養面におけるWEB配信もここ数年で増加傾向である。

(1) 特定保健指導

平成 20 年 4 月から高齢者の医療の確保に関する法律により、医療保険者に対して義務づけられた「特定健康診査・特定保健指導」の委託を受け、厚生労働省の「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づき専門スタッフが支援を行っている。

<プログラム>

① 動機づけ支援

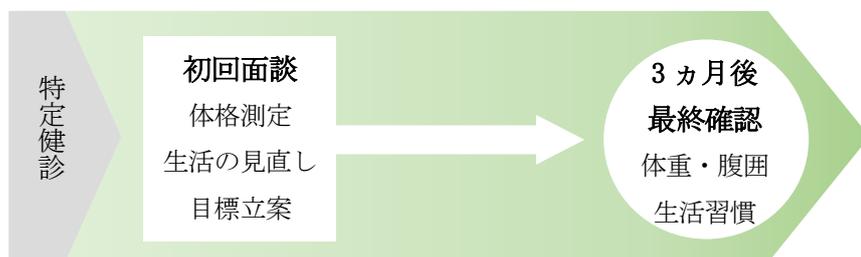
初回面談時に健診結果を用いながら現在の健康状態を確認し、今後の生活習慣病のリスクや食事・運動などの生活改善のポイントのアドバイスを行い具体的な行動目標を設定する。3 ヶ月後に取り組みの成果（体格の変化・生活習慣改善状況）について、電話等で確認し支援を行っている。

② 積極的支援

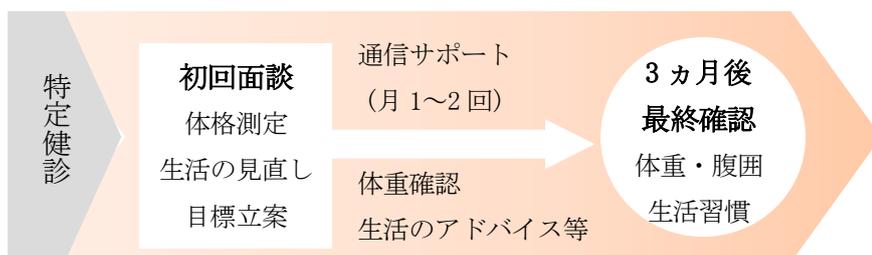
動機付け支援同様、初回面談時に行動目標を設定し、体重の変動や生活状況、健康意識を確認しながら3 ヶ月間電話やメールで連絡をとり継続的に支援を行っている。

<スケジュール>

【動機づけ支援】



【積極的支援】



<実施状況(令和3年度 初回面談実施数)>

(人)

来所型		出張型	
動機づけ支援	積極的支援	動機づけ支援	積極的支援
2,154	2,205	159	219

<実施成果(令和2年度 最終評価内容)>

(人)

	来所型		出張型		
	動機づけ支援	積極的支援	動機づけ支援	積極的支援	
初回面談実施者数	2,212	2,472	179	210	
途中終了者数 (%)	6(0.3)	216(8.7)	0(0)	7(3.3)	
最終評価未完了者数 (%)	99(4.5)	36(1.5)	2(1.1)	1(0.5)	
最終評価完了者数 (%)	2,107(95.3)	2,220(89.8)	177(98.9)	202(96.2)	
体格	体重：3 kg以上減量者数 (%)	156(7.4)	300(13.5)	16(9.0)	30(14.9)
	腹囲：3 cm以上減量者数 (%)	287(13.6)	520(23.4)	29(16.4)	48(23.8)
生活習慣	食生活：改善者数 (%)	1,677(79.6)	2,006(90.4)	139(78.5)	175(86.6)
	身体活動：改善者数 (%)	1,333(63.3)	1,532(69.0)	108(61.0)	132(65.3)
	喫煙：喫煙者数	74	997	17	104
	禁煙者数 (%)	6(8.1)	38(3.8)	1(5.9)	4(3.8)

(2022年12月16日 データ修正)

(2)健診結果説明会

事業所及び市町村との契約で、健診実施後に保健師が訪問し健診結果説明会を実施している。受診者自身が健診結果から自分の健康状態を理解し生活習慣を振り返ることで、今後の生活における改善点を見出すことができるようサポートを行っている。

<内 容> (事後指導実施団体 10 団体)

- 1) 健診結果(健診データ、判定、所見など)の見方について
- 2) 生活習慣(食生活、運動、飲酒、喫煙など)改善のアドバイス
- 3) 要精密検査、要治療者へ医療機関受診を勧奨
- 4) 必要な精密検査の説明(検査種類、方法など)

(3)派遣契約 産業医・保健師 活動内容

事業所及び健康保険組合、市町村との契約により、従業員及びその家族を対象に健康管理を目的とした産業医、保健師派遣を行っている。

保健師契約は、メンタルヘルスの相談や糖尿病、高血圧、脂質異常症の重症化予防のための面談などを実施した。

産業保健サポートサービス契約は 51 団体、産業医契約は 1 団体（令和 4 年度から産業保健サポートサービスに移行）、保健師契約は 6 団体。

①産業保健サポートサービス

<概要>

「働き方改革関連法」の施行に伴い労働安全衛生法が改正され、産業医・産業保健機能強化が明記された。これに伴い、産業保健業務を産業医と保健師が連携し、産業保健の充実を図ることを目的として、契約団体をトータルでサポートする「産業保健サポートサービス」を令和 2 年度から開始した。

<活動一例>

プレミアムサポートプラン（産業医派遣 12 回以上／年契約）

- ・A 事業所 : 産業医 : 1 日 11 回、半日 12 回派遣、WEB 会議 1 回、来所型産業医面談 3 回
- ・B 事業所 : 産業医 : 1 日 4 回、半日 9 回派遣、来所型産業医面談 1 回、WEB 産業医面談 6 回

ベーシックサポートプラン（産業医および保健師派遣 12 回以上／年契約）

- ・C 役 場 : 産業医 : 半日 3 回、保健師 : 1 日 3 回、半日 6 回派遣、来所型産業医面談 6 回
- ・D 事業所 : 産業医 : 半日 6 回、保健師 : 半日 6 回派遣、来所型産業医面談 17 回

<訪問・面談回数>

(回)

	R3									R4			
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総数
産業医派遣	16	11	19	15	20	16	18	13	17	17	22	24	208
保健師派遣	7	3	9	8	5	8	7	10	11	7	17	12	104
来所型産業医面談	8	4	10	7	10	6	8	10	8	8	9	8	96
来所型保健師面談	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
WEB産業医面談	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	6

②産業医・保健師訪問活動内容

- 1) 健康診断結果有所見者の保健指導
- 2) 長時間労働者・高ストレス者面談指導
- 3) 休職・復職面談
- 4) 治療と職業生活の両立支援面談（がん・慢性疾患など）
- 5) 職場巡視
- 6) 安全衛生委員会への出席（報告）
- 7) 衛生教育
- 8) 産業保健体制整備・年間計画策定への助言
- 9) 事業主、人事担当者への意見具申
- 10) その他

③産業医管理業務内容

- 1) 健康診断後の就労判定および要指導対象者の選定
- 2) 精密検査・治療結果の把握
- 3) 長時間労働者面接後の意見書の策定
- 4) ストレスチェック後の医師面接要否の判断および集団分析結果確認
- 5) ストレスチェック面接後の意見書の策定
- 6) 不調者に関する診療情報提供書の策定および復職時の産業医意見書の策定
- 7) 健康管理状況・作業内容・作業環境等の情報をつきあわせて原因の検討、対策の立案
- 8) 労働基準監督署への報告種類の記名・捺印
- 9) 依頼事項や相談への対応
- 10) その他

④保健師契約活動

業務起因性の健康障害を予防することや健康障害の早期発見のみならず、働く人々の健康と労働の調和をはかり、身体的・精神的健康度を増進かつ維持させることを目的としている。

各健康保険組合や企業との契約で、被保険者や従業員を対象に企業外健康診断機関の保健師として事業所訪問による保健指導、高ストレス者のフォロー、健康相談、安全衛生委員会への参加等を実施している。

(4)健康セミナー・健康講演会(職員派遣)

<概要>

健康セミナーでは、生活習慣病に関する正しい理解と予防・改善に向けた効果的な方法や健診受診の重要性を学び、健康づくりのきっかけとなる内容を実施している。

健康講演会(職員派遣)では各団体の依頼に応じ、保健師・管理栄養士・運動指導士の派遣を行っている。

<動向・成果>

健康セミナーは、企画立案から実施・評価まで年間通して計3回開催した(下表のとおり)。当日は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、対面型のセミナーを実施した。1団体に対しては1ヶ月間の動画配信にて実施した。

セミナー内容	回数	延べ人数
生活習慣病予防改善セミナー	2	90
重症化予防セミナー(動画配信)	1	66
計	3	156

健康講演会(職員派遣)は、令和3年度も昨年度同様新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面方式での開催を自粛する団体が多かったため、5団体6回のみの実施となった。

	内容	回数	派遣職員
1	高齢者の運動について	1	運動指導士
2	栄養講話	1	管理栄養士
	運動講話実技	1	運動指導士
3	肩こり腰痛対策	1	運動指導士
4	ロコモ対策	1	運動指導士
5	メンタルヘルス	1	保健師

(5) マッサージルーム

<概要>

肩こり・腰痛などの症状のため、日常生活に支障をきたしている方が多い。当センターでは、その症状を軽減し快適に過ごすための一手段として、検査の待ち時間などに利用できるマッサージルームを設置している。専任のマッサージ師1名を配置し「20分」または「40分」の2コースを実施。利用者には検査の合間にゆっくりした時間を過ごしていただいている。

<動向>

展望浴場の廃止に代わるサービスの1つとして、2日人間ドック受診者(センター泊限定)に対し、1日目の検査終了時から夕食までの時間帯に無料のマッサージサービスを計画した。マッサージメニューは、①足裏、②肩、③手の3種類から選択制で、各10分程度。試行期間として令和4年1～3月に実施したが、受診者には好評を得ており、毎回平均して1日の宿泊者数の約半数の利用があった。本稼動は令和4年4月からで、継続して実施したい。

<利用状況> (延べ人数)

	R3 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月	総数
20分 コース	25	21	19	21	24	21	29	22	25	30	23	28	288
40分 コース	17	18	26	22	27	24	27	21	23	20	20	33	278

(6)健康支援サイト「日赤 hara 凹(ボコ)ナビ」

<概要>

当センター利用者の健康意識向上と健康行動の実践を推進することを目的に、受診者と一体になって楽しく取り組むことができる ICT を用いた健康づくり支援を展開している。

<特徴>

- ① 当センター専門スタッフ(医師・保健師・管理栄養士・運動指導士)による健康アドバイスの配信
- ② スマホやパソコンで体重管理
- ③ 楽しみながら健康づくり (育成キャラ・歩数でマップやポイントランキング)
- ④ 一緒に頑張っている仲間の声をご紹介
- ⑤ ニックネームで気軽に登録

<動向>

平成 26 年 9 月 1 日から開始し、登録者数は令和 4 年 3 月末日時点で 2,472 人となったが、1 年を通しての登録者数は減少しつつある。健康アドバイスの配信として、月に 2 回、食事 (レシピ含む)、運動、禁煙など新型コロナウイルス感染症の情報を交えながら提供した。ダイエットをしたい方、今の体重をキープしたい方、もっと健康について知りたい方など、「日赤 hara 凹ナビ」を通して、登録者の健康と体の引き締めをサポートしている。

<情報提供>

※一部記載

時期	テーマ	カテゴリー
4 月	お弁当の彩りに！らくらくレシピ	レシピ
5 月	つぶやいてみませんか？	つぶやき
6 月	梅雨到来！食中毒にご用心	食事
7 月	大変！もうすぐ健診だ！	生活
8 月	頑張った日には誉めよう！	生活
9 月	マスクの下でも鼻呼吸！！	生活
10 月	作り置きもおすすめ！冷蔵庫のストック野菜で作れるトマト料理	レシピ
11 月	秋の味覚を楽しもう！～果物編～	食事
12 月	純アルコール量を目安に	生活
令和 4 年 1 月	疲れた胃腸のメンテナンス	食事
2 月	冬は体脂肪がへりにくい！？	身体活動
3 月	温活でむくみ解消！	身体活動

(7) 広報・マスメディアを通しての健康情報提供

<概要>

情報提供として、テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材や原稿の対応をしている。

<動向>

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康セミナーや講演等が相次いで中止、縮小となった。また、連載中であった新聞への掲載が出版社側の見直しもあり終了となった。そこで昨年度に引き続き、動画配信とともに新聞・情報誌などのメディア出演や原稿協力を積極的に行い、人間ドックや健診当日だけでなく、継続してつながりを持てるよう情報の発信を行った。

<内容>

	管理栄養士	運動指導士
テレビ取材協力 (2回)	・イチジクの栄養価	・エコノミークラス症候群予防
原稿協力 (41回)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏を乗り切るお酢パワー ・その不調・・・鉄分不足かも!? ・かんたん!ヘルシー! オートミールごはん ・ホッとドリンク ・季節の変わり目に体を整える 簡単レシピ 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で出来る簡単筋トレ ・いつでもどこでもストレッチ ・コロナ禍での健康づくり ・フレイル予防体操 など
動画配信 (公式YouTube) 令和3年3月現在	栄養動画 (15本) <ul style="list-style-type: none"> ・時短♪カンタン♪ ヘルシーレシピ 	運動動画 (14本) <ul style="list-style-type: none"> ・ロコモ予防ストレッチ、自重筋トレ など ・エコノミークラス症候群予防

5. 外来事業

<概要>

当センターでは、人間ドックや健康診断受診後に必要な再検査や精密検査を提供する目的で外来診療を実施している。診療科目は主に、糖代謝や脂質代謝を診療する「再検外来」「代謝外来」、消化管や肝機能などの「消化器外来」、肺や肺機能などを診療する「呼吸器外来」を設定し、重大な病気の発症予防や重症化予防のために、生活習慣改善や定期的なフォローによる健康支援を提供している。また、疾病の鑑別診断や重症化予防だけではなく、肺がんの発症予防のために禁煙を支援する「禁煙外来」なども行い、疾病の発症予防を目的とした予防医療に注力している。

<動向>

平成10年6月から、人間ドックや各種健診後の異常者をフォローする目的で外来診療を実施している。当センターの外来診療は、薬物治療が必要となる前に生活習慣を変えることで疾病の発症予防と重症化予防を図ることが大きな目的であり、診療には、医師、看護師だけでなく、保健師管理栄養士、運動指導士などを配置し、日常生活における食事、運動などの生活習慣の改善支援を専門スタッフが行なえるよう配慮している。また、人間ドック受診後や健診受診後のフォローと鑑別診断を中心に外来診療を提供するため、これらの健診受診者を優先する完全予約制で診療を提供している。

平成23年1月からは胃がんや潰瘍の発症要因とされているピロリ菌の除菌を目的とした診療を開始し、平成24年10月から、がんや様々な生活習慣病の発症因子、増悪因子となる「喫煙」についても禁煙治療を行う「禁煙外来」を実施し、平成25年度からは熊本赤十字病院で治療上、禁煙が必要と判断される方に対し、連携して「禁煙治療」を提供できるよう整備を行なった。

平成27年度には、外来で骨粗鬆症の予防にも取り組み、人間ドックや健康診断の骨密度検査で要再検査や要精密検査となった方への診療を行い、治療及び他の医療機関との連携等、健康支援も提供している。

令和2年度からは新型コロナウイルス感染防止対策として慢性疾患を有する定期受診者に対し、電話での診療及び処方を行うことが可能となり、当センターでも迅速に対応し感染防止に努めている。

令和3年度には当センターの人間ドック・健康診断を受診し、「がんの疑いで精査中」または「主治医でがんの診断・治療中・治療後」等の方で、健康や生活に不安を抱えている方を対象に、より納得して治療を受け、生活していただくためのご支援として「がんよろず相談室」を設け、ご自身のニーズにあったリソースの紹介（がん相談支援センター、行政窓口、ピアサポート等）を行っている。

●保険診療委員会開催

- 第1回 令和3年 6月 18日（金）16:00～
- 第2回 令和3年 10月 27日（水）15:30～
- 第3回 令和4年 3月 1日（火）イントラネット配信

<成 果>

外来診療の実績は下記のとおり（保険診療・自由診療）

◎外来診療実績（初・再診別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	35	27	22	21	23	20	18	22	25	27	21	24	285
再診	476	383	541	459	482	499	528	472	502	396	382	488	5,608
計	511	410	563	480	505	519	546	494	527	423	403	512	5,893
院外処方	200	168	237	186	177	218	181	169	224	169	165	226	2,320

◎診療科目別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
消化器	93	40	63	60	90	76	77	94	69	65	66	79	872
代謝	102	103	126	98	99	129	105	90	121	105	90	116	1,284
再検	153	113	152	133	135	145	158	132	155	109	111	150	1,646
呼吸器	140	143	204	164	170	158	199	161	167	131	126	159	1,922
乳腺	3	0	0	4	0	3	0	2	4	0	1	0	17
禁煙	8	5	8	7	3	2	3	1	1	1	1	0	40
一般	12	3	9	13	8	6	3	12	9	12	8	8	103
除菌 (自由)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
歯科 (自由)	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
内科・ その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学校検診 二次	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	511	410	563	480	505	519	546	494	527	423	403	512	5893

<課 題>

人間ドックや健診で見つかる軽度の異常を放置することは、せっかく発見された病気の兆候を放置し、医療機関で治療が必要なまでに病気を重症化してしまうことを意味する。予防医療の役割は、病気を早期発見するだけではなく、人間ドックや健診で軽度の異常が見つかった方に対して、積極的な生活習慣改善の支援を行い、病気にならないよう医療サービスを施すことが本来の予防医学と考える。当センターで行う外来診療の大きな目的は、何らかの異常が発見された方に対して必要な検査を提供するとともに、生活習慣改善による病気の発症や重症化を防ぐための支援を提供すること、また、疾患が疑われ、精密検査や治療が必要な方は専門の医療機関や地域の医療機関に連携し、適切な地域医療サービスを受療してもらうことを目的としている。

今後も人間ドックや健診で異常が見つかった方が、より受診しやすい外来になるよう、地域の医療機関と連携した外来機能を充実させ、健診機関の外来として再検査を中心とした診療に取り組みたい。

各部門の一年

1. 放射線診断部

放射線課

<概要>

放射線課には、診療放射線技師 21 名、メディカルエイド 5 名、事務職 4 名が在籍しており、胸部 X 線検査、胃部 X 線検査、マンモグラフィ検査、胸部 CT 検査、腹部 CT 内蔵脂肪検査、頭部 MRI+MRA 検査、骨密度検査を担っている。

<動向>

令和 3 年 6 月に、2 階胸部 X 線装置 1 台を更新した。今回更新した胸部 X 線装置は、診断用 X 線発生装置にキヤノンメディカルシステムズの医用 X 線高電圧装置 KXO-50SS、医用 X 線機械装置に富士フイルムメディカルの CALNEO PU FM-PU1 を導入した。それにより、令和 2 年度 全衛連エックス線写真精度管理調査では、最も優れている評価 A を取得することが出来た。点数に関しても、前回の記録を上回る高得点であった。

<成果>

令和 3 年度の実績は、胸部 X 線検査約 95,000 件、胃部 X 線検査約 29,000 件、マンモグラフィ検査約 26,000 件、胸部 CT 検査約 4,600 件、腹部 CT 内臓脂肪検査約 600 件、頭部 MRI+MRA 検査約 3,100 件、骨密度検査約 6,800 件であった。

<課題>

令和元年度の主な死因別死亡割合のうち、がんの割合は、全国で 27.3%、熊本県で 25.6%であった。胃がんは、がんによる死亡原因の第 3 位、罹患数は第 2 位である。死亡者数(*1)は、男性が約 27,800 人、女性が約 14,500 人、罹患数(*2)は、男性が約 86,900 人、女性が約 39,100 人である。近年、胃がんの死亡率は男女ともに減少傾向にある。胃部 X 線検査を用いた胃がん検診は、胃がんの死亡率減少に効果があることが証明されている。昨年度は、胃部 X 線検査受診者への声かけを変えることで、検査を中止する受診者を減らし、受診率向上に繋げた。今年度も、さらに工夫を凝らし、受診率向上に努めたい。

また、わが国において、肺がんの罹患数は第 3 位であるが (*2) 死亡数では第 1 位 (*1) であり、肺がんの早期発見が急務である。胸部 X 線検査に加え、胸部 CT 検査を受診することで早期に肺がんを発見・治療することが可能となるため、胸部 CT 検診のさらなる受診勧奨を行いたい。

さらに乳がんにおいては、女性の罹患数、第 1 位 (*2) であり、近年急増し続けている。マンモグラフィ検査では、羞恥心や痛みを伴うため、一部敬遠する受診者もいるが、診療放射線技師が、技術の向上を行うと共に、受診者の気持ちに寄り添った検査を行うことで、可能な限り受診者の負担を減らしたいと日々研鑽している。それにより受診率を向上させ、早期発見・治療へと繋げていきたい。

一方、近年診療放射線技師の重要な責務となっているのが、機器管理及び被ばく線量の管理である。診療に必要な質の高い画像を、より少ない被ばく線量で提供できるよう、第三者機関による精度評価(全衛連、精中機構等)を含め、始業点検や保守管理を徹底して行うことで、精度向上に努めたい。

*1 2020 年時点 *2 2018 年時点

<有資格項目>

当センターの放射線課では、以下の資格を有する放射線技師が在籍している。

胃 X 線精度管理機構基準撮影法指導員 (NPO 法人)	2 人
胃がん検診専門技師 (日本消化器がん検診学会)	7 人
胃 X 線検診読影補助認定技師 (消化器がん検診学会)	1 人
胃がん X 線線検診技術部門 B 資格検定 (NPO 法人)	2 人
胃がん X 線検診読影部門 B 資格検定 (NPO 法人)	4 人
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師 (精度管理中央機構)	7 人
ピンクリボンアドバイザー (NPO 法人)	1 人
肺がん CT 検診認定技師 (肺がん CT 検診認定機構)	3 人
超音波検査士 (消化器) (日本超音波医学会)	1 人
第一種放射線取扱主任者 (原子力規制委員会)	2 人
放射線管理士 (日本診療放射線技師会)	2 人
放射線機器管理士 (日本診療放射線技師会)	3 人
医療画像情報精度管理士 (日本診療放射線技師会)	3 人
医療情報技師 (日本医療情報学会)	3 人

<画像精度管理>

胸部エックス線検査分野 (全衛連 総合精度管理委員会)	評価 A
胃 X 線検査分野 (全衛連・日本消化器がん検診学会)	評価 A
マンモグラフィ検診施設画像認定 (日本乳がん検診精度管理中央機構)	

<活動項目>

熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 非常勤講師	2 人
熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 臨床准教授	10 人
一般社団法人熊本県放射線技師会 常務理事	1 人
公益社団法人日本診療放射線技師会 業務改善推進委員	1 人
九州地域放射線技師会 常務理事	1 人
熊本県生活習慣病健診等管理指導部会 委員	1 人
熊本県肺がん部会 委員	1 人

<参考文献>

- ・ 国立がん研究センター がん情報サービス ホームページ
- ・ 令和 3 年度生活習慣病健診等管理指導部会 熊本県がん検診関係データ集

2. 検査部

(1) 第一検査課

<概要>

第一検査課の主な業務内容は人間ドックや施設内外の健康診断、外来診療等に関わる検査業務である。検体検査においては血液生化学検査、尿検査、便潜血など年間約13万検体を検査している。人間ドックにおいては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・眼圧・肺機能・安静心電図・負荷心電図・血圧脈波・頸動脈超音波・心臓超音波・視野検査など数多くの検査を実施している。

また、健康診断においては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・安静心電図・尿検査などを担当している。その他、外来の採血や子宮がん検診・病理組織検査、VDT 検診の検査、学校心電図検査といった幅広い検査業務を行なっている。

<動向>

人間ドックでは、循環器超音波診断装置1台、運動負荷心電図検査装置2台（心電計、エルゴメータ、血圧計）、血圧脈派検査装置1台、肺機能検査スパイロメーター2台、視力計1台を更新、施設外健診では、視力計1台を更新し運用の改善、精度の維持・向上に努めた。

また、検査技師としての技術や知識の向上をはかるため例年実施している課内の勉強会は、昨年に続き新型コロナウイルス感染防止のため密を避ける意味からパワーポイントなどを活用しWEBでの開催とした。

<成果>

今年度の検査課実績としては、2日人間ドック受診者が約3,700人、1日人間ドック受診者が約26,000人、あわせて約30,000人の方々に対して生理検査が15項目と血液検査等が30数項目の検査を実施した。また、健康診断においては、施設内健診受診者が約40,000人、施設外健診受診者は約77,000人、合計約117,000人の方々に対して、生理検査が約8項目、血液検査等が約20項目の検査を実施した。その他主な検査として、外来受診者の採血が約4,000人、子宮頸部細胞診が約25,000人、頸動脈超音波検査が約5,100人、血圧脈波検査が約2,100人、負荷心電図検査が約4,000人、心臓超音波検査約600人という実績であった。その他にも学校心電図検査やVDT検査を実施している。

<課題>

検査業務については昨年と比較し新型コロナウイルス感染症の影響があったにもかかわらず増加傾向の実績であった。

今年度も昨年に続き、新型コロナウイルスに対する受診者、検査スタッフの感染予防対策を講じての検査実施となった。

今後も、新型コロナ対策で見えてきた課題について、改善の実行、感染対策の継続等より良い業務体制の構築に努めるとともに、計画的な機器の更新の実施、時代に沿った検査機器、検査項目の情報収集、導入に努めていくことが必要である。また、若い人材の採用、育成について第二検査課と連携し強化していきたい。さらに、検査部門での精度管理等精度の向上、技術や知識の向上に組んでいきたい。

(2)第二検査課

<概要>

臨床検査技師 22 人（男性 7 人・女性 15 人）が在籍しており、超音波検査及び結果データ入力業務を行っている。

◎対象臓器：腹部（肝臓・胆のう・胆管・すい臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈）

乳房*・甲状腺*・頸動脈*（* はオプション検査）

◎超音波診断装置使用機種：

Canon 社製（14 台）：Aplio300・400

日立製作所製（2 台）：Prosound α7

PHILIPS 社製（2 台）：Affiniti 70

<動向>

施設内では、南館 4 階超音波検査室にて 7 台の超音波診断装置で人間ドックの腹部超音波検査に対応している（このうち 1 台が頸動脈超音波検査に対応）。また、南館 2 階超音波検査室にて 3 台の診断装置で施設内健診及び外来検査に対応している。施設内においては、すべて診断装置 1 台につき技師 1 人が対応している。

施設外では、8 台の検診車に 9 台の診断装置を搭載し（検診車 8 台のうち 1 台に診断装置を 2 台搭載）、最大 12 人の技師が対応している。

施設外健診において検診車 8 台（診断装置 9 台）すべてが稼動する場合、診断装置 3 台は 1 台につき技師 2 人（主に乳房超音波検査：女性技師）で対応し、6 台は 1 台につき技師 1 人（主に腹部超音波検査：男性技師）で対応している。

令和 3 年度もパソコン上で所見を管理するペーパーレス化を継続している。また、今年度からの新健診システムの導入により、画像記録形式を DICOM に変更している。

<成果>

令和 3 年度部位別超音波検査受診者数

	腹部超音波	乳房超音波	甲状腺超音波
1 日ドック	26,326 人	8,160 人	3,883 人
2 日ドック	3,729 人	613 人	596 人
施設内健診	6,371 人	7,092 人	530 人
施設外健診	29,678 人	12,815 人	3,703 人

1 日ドックでは腹部超音波は 1,145 人の増加、乳房超音波は 350 人の増加、甲状腺超音波は 23 人の増加、2 日ドックでは腹部超音波は 138 人の増加、乳房超音波は 4 人の増加、甲状腺超音波は 121 名の減少、施設内健診では腹部超音波は 441 人の増加、乳房超音波は 430 人の増加、甲状腺超音波は 435 人の増加、施設外健診では腹部超音波は 2,986 人の増加、乳房超音波は 1,047 人の増加、甲状腺超音波は 34 人の減少だった。

昨年度と比較すると腹部超音波は 4,710 人の増加、乳房超音波は 1,831 人の増加、甲状腺超音波は 303 人の増加であった。

◎日本超音波医学会認定技師

消化器領域 21 人・体表領域 20 人・泌尿器領域 12 人・循環器 1 人（第二検査課のみ）

◎全国労働衛生団体連合会による令和 3 年度腹部超音波精度管理パイロット調査

「評価 A」

<課 題>

第一検査課・第二検査課が、お互いの業務を共有できるよう人材の有効活用を目的に取り組んできた結果、昨年度より各スタッフが色々な部署において協力体制の構築ができた。しかし、スタッフの業務の負担は大きいのでさらなる負担軽減に努めたいと考える。

令和 3 年度も時間外勤務の削減に取り組み、施設内健診では基本的に定時で退社するように、施設外健診では帰社後の処理が済んだら退社するように意識改革に取り組んでいる。次年度も業務内容を検討し、さらなる改革に取り組みたいと考える。

人間ドックにおいては令和 2 年度のペーパーレスへの運用変更と、令和 3 年度からの新健診システム導入により腹部検査の終了時間が早くなった。そのため、オプション検査を午前中に開始できるようになり、待ち時間の短縮につながった。今後も、オプション検査についても受診者を待たせる事なく実施できるような体制を維持したいと考える。

日本人間ドック学会から推奨されている腹部超音波所見のカテゴリー分類に関しては、以前から導入しており現在進行中である。

3. 保健看護部

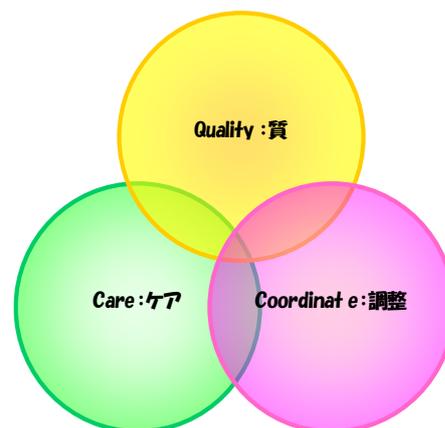
<保健看護部の理念・方針・実践目標>

- ①**保健看護部理念**：私たちは、すべての人の人権を尊重し、グローバルな視点を持ち、赤十字の基本である『人にやさしい思いやりのある心』を持って、保健・看護サービスを提供します。
- ②**保健看護部方針**：①すべての人の健康や生活の質の向上を目指し、継続的な支援を行う。
②保健や看護の専門性を発揮し、事故のない安心で安全な看護サービスを提供する。
③質の高い保健・看護サービスを提供するために自己研鑽に努める。
- ③**実践目標**：単に疾病の早期発見だけではなく、健康を支援するために、常に最高水準の看護サービスが提供できるように、保健指導の技術を磨き、知識を深めることに努めている。そのために、専門職のアプローチとして、「Quality」「Care」「Coordinate」の3つの「QCC」を実践目標としている。また、受診者やスタッフが安心・満足して過ごせるような環境をつくることも目指している。

<Quality> 受診者のQOLの向上・スタッフのQWLの向上・看護の質向上

<Care> 受診者ニーズに応じたケアの提供
生活背景を視野に入れたケアの提供
安全と安楽を目指したケアの提供

<Coordinate> 受診者と適正な医療・社会資源との調整、スタッフ間の調整、地域・職域における保健事業との調整



<保健看護部の組織と業務内容>

保健看護部は、保健看護課・健診保健課・外来看護課・お客様サポート課からなる4課7系の組織である。

- ・保健看護課：人間ドック事業にて保健・看護領域全般に関与し、また健康増進部と連携し特定保健指導等にも取り組んでいる。
- ・健診保健課：施設内・施設外の健康診断に関与し、5がん検診や特定健診・生活習慣病健診・特殊健診等に取り組んでいる。
- ・外来看護課：外来看護係では、保険診療外来（消化器、代謝、呼吸器、再検査など）にて人間ドック・健診後のフォローアップ目的で、再検査や精密検査、生活指導を行い、内視鏡看護係では、上部・下部消化管内視鏡検査など、安心・安全な検査が受けられるように支援している。
- ・お客様サポート課：お客様相談係と健康情報係にて受診者サービス及び総合精度管理・医療安全管理（感染管理を含む）の事務局として人間ドック事業・健診事業・外来事業の前方支援・後方支援を行っている。

<教育体制>

教育システムは「赤十字のキャリア開発ラダー」を導入し、看護職個々人がキャリアアップできるよう継続教育のシステムを整備している。平成22年度より健診施設独自の新人・現任集合教育

に取り組み、平成 25 年からは中途採用者の OJT 教育体制の充実を図り、平成 26 年度からは新人、中途採用者や配置換え職員へのメンタルサポート支援を実施している。また平成 23 年度から「管理者ラダー」を導入し、課長（師長）を対象とした日本赤十字社本社の看護管理者教育者研修や九州ブロック赤十字医療施設の看護管理者研修に参加している。また看護協会主催の新人教育研修責任者等研修や認定看護管理者研修等に積極的に参加する等、看護管理の教育にも取り組んでいる。さらに保健看護部内で、主任・係長・課長（師長）に対して同内容で月に 2 回の管理者研修を実施した。内容は「リーダーシップ」、「マネジメント」、「コミュニケーションスキル」、「変革理論」等であった。

<令和 3 年度保健看護部の活動目標と成果>

【活動目標】

1. 看護要員の確保と定着
2. 看護要員の人材育成
3. 質の高い看護サービスの提供
4. 新たな健診システムの構築

【成果】

看護要員の確保は、育児休暇・育児短時間制度利用者が増加していることや保健看護部の業務が多岐に渡ることから増員せざるを得ない状況にある。そのため採用計画どおりにいかず非正規職員を雇用し確保している。

人材育成については、保健看護部の OJT 研修、現任教育のみならず、各課、係で勉強会を計画していたが、今年度も感染症の影響で延期または少人数での研修に留まった。特定保健指導に関しては、禁煙・アルコール作業部会のメンバーを中心に引き続き行った。

質の高い看護サービスの提供では、「医療安全管理体制の強化」、「感染対策の強化」、「健康支援サービスの強化」、「精度管理の強化」に取り組んだ。医療安全管理体制の強化については、各部署で緊急時のシミュレーションを行った。保健看護課では、「胃透視検査後の意識消失の対応」を行い、健診保健課では、「施設外健診での緊急時対応」「2 階施設内健診での緊急時対応」、レディースセンターにて「子宮がん検査時の緊急時対応」を実施した。外来看護課では、「南館 1 階外来での緊急時対応」、「内視鏡室での災害時の避難訓練」、「内視鏡室での災害時の緊急時対応」を実施した。お客様サポート課では、緊急時対応についての机上訓練を行っている。

新型コロナウイルス感染症対策として、受診者来所時の体調チェック等の感染対策を継続し取り組んだ。内視鏡看護係では、例年どおり「感染管理」「内視鏡機器の消毒」について勉強会を開催し、週 1 回内視鏡スコープの ATP 検査を実施している。

健康支援サービス品質管理の充実では、日本糖尿病療養指導士及び地域版糖尿病療養指導士 23 名が在籍しており糖尿病作業部会のメンバーとしても活躍している。熊本県の熊友パスでの連携を強化し、令和 3 年度は約 200 件の連携を行った。

精度管理については、総合精度管理委員会の下部組織であるワーキンググループにて各課題に取り組んだ。特に肝疾患ワーキンググループでは、FIB-4index の検査項目導入のために判定基準や検査結果報告について取り組んだ。

新たな健診システムの構築については、令和 3 年 4 月より、約 2 ヶ月間の調整を経て大きなトラブルなく稼働している。

(1)保健看護課

<概 要>

保健看護課は人間ドック業務を担当している。血圧測定・問診では受診者の体調や病歴等の確認を行い、体調不良時は看護ケアを行い受診者が安全に検査を受けることができるよう努めている。診察介助は問診や検査結果を確認し必要な情報を医師へ報告し、診察・結果説明が円滑に実施されるよう配慮している。当日の医師の結果説明の後に保健相談や特定保健指導を行い、受診者の行動変容を支援している。また令和2年度に導入したあたまの健康（認知機能）チェックを担当している。

<動 向>

令和3年4月から新健診システムへ更新となり、それに伴い業務改善やスタッフ教育を行い、問診や面談システム、紹介状作成システム等の調整を重ね安定稼働させることができた。

安全面においてはコロナ禍において受診者が安心して人間ドックを受診していただけるようチェックリストを活用し感染対策を強化した。また災害時アクションカードのバージョンアップ、緊急時マニュアルの見直し、緊急時訓練の実施など緊急時対応を強化した。

保健相談においては管理栄養士・運動指導士と連携し保健相談実施率の向上を図り、次回ドックまでの目標設定支援を強化した。また糖尿病精査受診率向上のために糖尿病連携手帳を活用し受診勧奨を行った。保健相談 Q&A 集の作成、特定保健指導利用者の健診結果の評価など保健相談の評価や充実に取組んだ。

あたまの健康（認知機能）チェックや FIB-4index 等、担当者研修会や機関紙で受診者に有用な情報提供を行った。

(人間ドック保健相談件数)

	1日ドック	2日ドック
保健相談実施数（人）	21932	3570
うち、特定保健指導実施数（人）	2551	3590
実施率（%）	87.1	99.4

<課 題>

今後も安全な検査の提供、感染対策、保健相談の充実に努めるとともに、WEB 問診導入等 ICT 化について検討を進めたい。

(2)健診保健課

<概 要>

健診保健課の主な業務内容は施設内外の健康診断に関わる業務とドック・施設内外の婦人科検査に関わる業務である。具体的には、血圧測定・問診・診察介助・婦人科検査介助のほか、人間ドックのレディースコースでは保健相談・特定保健指導、健康診断では予防注射業務を実施している。

<動 向>

令和3年度も施設内健診の協会けんぽ健診受診者においての当日特定保健指導を行う体制を地域産業保健課と連携し継続して行っている。

施設内健診においては、血圧測定結果のオンライン登録、問診担当者の入力を実施することで進捗管理が可能となった。また検査案内の順番を検討し、待ち時間や滞在時間の短縮をすることができた。

施設外健診においては、婦人検診車のリノベーションが終了し、前機種より広い空間での検査が可能となった一方、段差や車高の関係上一層の転倒防止に努めた。また、一部の団体においてWeb予約を導入することができた。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、職員及び職域コロナワクチン接種の実施に携わった。

<成 果>

健診フロアでの新型コロナワクチン職域接種に関して円滑かつ安全に実施することができた。

令和3年度は前年度以上の受診者を施設内健診で受け入れているが、検査順番変更により、医師診察・胃透視検査終了時間が早まり、受診者の滞在時間を短くすることができた。施設内健診での進捗管理の導入により健診フロアの各所で受診者の進捗を確認でき、検査漏れ抑制につながった。

WEB予約の導入は、受診予定人数の正確な把握、受診者の集中の防止、待ち時間の短縮に効果があった。

<課 題>

WEB予約で受診予約人数の正確な把握が可能となり適正なスタッフ配置につながったと考えられる。今後、WEB問診の導入で受診者の利便性が向上されることが予想され、内部での検討を進めていきたい。

(3)外来看護課

<概 要>

外来看護課は、外来看護係と内視鏡看護係の2係からなる。

- ・外来看護係・・・自施設の間ドック・健診で再検査や精密検査となった方へのフォローアップを目的とした保険診療外来（消化器、代謝、呼吸器、再検査など）で診察介助や生活指導などを実施している。
- ・内視鏡看護係・・・上部・下部消化管内視鏡検査の検査介助、検査前から体調回復までの看護ケア、機器の洗浄・消毒や管理など受診者が安全で安心して検査を受けられる支援を実施している。

<動 向>

外来看護係は、人間ドックや健診後の再検、精密検査を行う自施設の役割を踏まえ、かかりつけ病院や中核病院との連携を行った。禁煙外来は、治療薬の供給停止に伴い薬物治療希望者に応じることができなかったが、継続して禁煙支援を実施した。受診者支援として前年度から強化していた糖尿病やCKD予防の支援を継続し、今年度は、新たにFIB-4indexを導入した脂肪肝への支援を実施した。

内視鏡看護係は、新健診システムの導入に伴う変更点の周知、不具合に対しシステム管理係との調整により安定稼動に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症対策は、スタンダードプリコーション、PPE（個人防護具）の強化を継続し、エアロゾル対策として検査用マスクの着用を導入した。医療安全面では、咽頭反射や偶発症軽減のため内視鏡医師と鎮静剤（ミダゾラム）の導入を検討し、9月から2日ドックの上部内視鏡・全大腸内視鏡検査同日実施者を対象に開始した。また、災害時及び緊急時対応シミュレーションを実施し、アクションカードの見直しやシステムの緊急時対応の体制を整えた。

<成 果>

外来看護係は、糖尿病、CKD、脂肪肝の支援を充実し、媒体の掲示や活用方法の工夫により受診者の生活指導を強化することができた。

内視鏡看護係は、受診者から内視鏡検査の感染対策に関する苦情はなく安心して検査ができる環境整備ができた。鎮静剤（ミダゾラム）は導入後も問題なく実施ができています。緊急時対応シミュレーションの実施に加えシステムの緊急時対応についてマニュアル整備、周知ができた。

<課 題>

外来看護係は、糖尿病やCKD、脂肪肝の生活指導を継続実施し、関係部署との連携強化や実施評価を行っていききたい。自施設の外来機能の明確化・医療機関との連携、電子カルテの導入については、次年度も引き続き進めていく必要がある。

内視鏡看護係は、緊急時対応の強化としてシステム対応のシミュレーションも追加する必要がある。今後も内視鏡医師と情報共有し、医療安全面での内視鏡機器、薬剤等の検討や感染対策の検討を行い、受診者に安全で安心して検査を受けられる体制整備を行っていききたい。

(4)お客様サポート課

<概要>

お客様サポート課は、お客様相談係と健康情報係の2係からなり、人間ドック・各種健康診断受診前後の問合せ窓口としての役割をもつ。

- ・お客様相談係・・・受診前の検査内容の相談を受け、治療中の疾患や体調などを考慮して安心安全な検査の提供に努めている。
- ・健康情報係・・・検査結果に関する問合せや要精密検査の方を専門医療機関へ繋ぐ役割を担う。精密検査受診率向上のため医療連携機能を強化、未受診者への受診勧奨や精密検査結果の管理をしている。

<成果>

人間ドック・健康診断で要精密検査となった方の医療連携を強化。特に、赤十字のネットワークを活かし、隣接する熊本赤十字病院へ紹介することにより、質の高い医療提供に加え利便性の向上につながっている。

また、医療機関宛ての紹介状を見直し、要精密検査となった項目だけでなく、その他の体格・血圧・血液データなどの受診者情報も提供。受診者の全体像を把握いただけるよう改善し医療機関から高評価をいただいている。精密検査未受診者への受診勧奨の通知では、受診報告を郵送とWEBのいずれかの選択とした結果、前年と比較し、60歳代以下の各年代で返信率が上昇している。

令和3年度発足したお客様サービス向上委員会の事務局を担当。委員は主任以上の職位の者とし、各現場での課題について課を超えて検討することでソフトハードの両面からお客様の視点に立った対策の立案、実施につながっており今後も活動を継続していく。

<課題>

令和2年度の精密検査受診率は、前年度と比較し、人間ドックは上昇、施設内外健診は横ばいであった。受診率の向上に向け、関連部署と連携し取り組んでいく。

調査報告

各学会及び市町村団体から、以下の依頼を受け集計報告を行った。

- 令和3年 4月 地域保健・健康増進法事業報告 (25市町村)
- 令和3年 4月 日本人間ドック学会 施設会員実態調査
- 令和3年 5月 熊本県胃検診推進協議会 読影委員別結果報告
- 令和3年 9月 全国労働衛生団体連合会 胸部X線検査精度管理調査
- 令和3年 9月 全国労働衛生団体連合会 胃部X線検査精度管理調査
- 令和3年 10月 全国労働衛生団体連合会 腹部超音波検査精度管理調査
- 令和3年 10月 日本人間ドック学会 健診施設におけるがん検診精度向上支援委員会調査
- 令和3年 11月 前立腺研究財団 前立腺がん検診実態調査
- 令和4年 1月 日本消化器がん検診学会 消化器がん検診実態調査
- 令和4年 1月 日本人間ドック学会 新型コロナウイルス感染症に対する健診施設の影響調査

地域保健・健康増進法事業報告より、当センターの健診成績は以下(表1)の通り。

(表1) 地域がん検診の事業評価指数(許容値)と当センター検診実績(2019年度)との比較					
がん検診種類	要精検率 (許容値)	精検受診率 (許容値)	がん発見率 (許容値)	陽性反応適中度 (許容値)	全国の陽性 反応適中度
胃がん(X線)	4.4% (11.0%↓)	86.1% (70%↑)	0.19% (0.11%↑)	4.4% (1.0%↑)	1.94%
胃がん(内視鏡)	2.5%	100%	0.20%	7.8%	4.68%
大腸がん	5.2% (7.0%↓)	80.8% (70%↑)	0.16% (0.13%↑)	3.0% (1.9%↑)	3.24%
肺がん	0.5% (3.0%↓)	96.8% (70%↑)	0.06% (0.03%↑)	11.3% (1.3%↑)	2.62%
乳がん(MMGのみ)	3.1% (11.0%↓)	96.2% (80%↑)	0.23% (0.23%↑)	7.3% (2.5%↑)	5.41%
子宮頸がん	0.5% (1.4%↓)	86.4% (70%↑)	0.03% (0.05%↑)	5.1% (4.0%↑)	1.37%

(委員会)

- 医療安全推進室(随時) 医療安全に関する教育及び医療事故発生時の対応
- 医療安全管理委員会(月1回) 医療事故等の予防対策等の推進
- リスクマネジメント部会(月1回) 医療事故防止対策等の実効化
- 感染対策部会(不定期) 感染対策及び防止に関すること
- 総合精度管理委員会(随時) 健診、検査に係る精度管理の評価・審議
- お客様サービス向上委員会(随時) 利用者に提供する各種サービスの向上に関すること

4. 健康増進部

健康増進部は、健康支援課、健康栄養課、地域産業保健課で構成されている。職種も保健師、管理栄養士、運動指導士、事務職が一同に会しており、保健指導や健康の維持増進のための事業を行っている。健康支援事業の詳細については、37～44 ページを参照

(1)健康支援課

<概 要>

健康支援課は、健康支援管理係と運動指導係の2係で構成されており、健康増進部における管理を担っている。

- ・健康支援管理係・・・特定保健指導予約・受付から3ヵ月後の結果処理までの事務管理業務全般
マッサージルームおよびティールーム管理
健康支援サイト「日赤 hara 凹ナビ」情報発信など
- ・運動指導係・・・人間ドックにおける体力測定、運動指導
特定保健指導における運動指導
職員派遣（健康セミナー、健康講演など）
健康情報の発信（メディア、各広報誌など）

<動 向>

令和3年度の施設内の特定保健指導初回面談利用率は、昨年度利用率の94%と上回ることは出来なかったが、保健指導対象者数の減少がその一因であると考え。令和2年度から利用者が急激に伸びた分、事務処理量も増え負担もかなり増えていた為、従来の作業を見直し、簡素化・効率化を計った。

セミナー等については、昨年に引き続きコロナ禍の中、縮小や中止が相次いだが、状況も少しずつ変化があり、講演の依頼はあるものの直近でコロナ禍の状況を考慮して中止になるケースが見受けられた。昨年度に引き続き、運動の動画作成・配信を継続し、配布資料にはQRコードを記載し家庭や職場内でも気軽に運動が出来る環境づくりを提供した。

人間ドック運動指導	1日人間ドック	527人
	2日人間ドック（特定保健指導含む）	2,866人（内特定 249人）
健康支援事業	健康セミナー、健康講演会（職員派遣）	
	各種メディア対応（新聞、雑誌など）	
	動画配信（公式YouTube）	

<課 題>

特定保健指導の事務管理業務は、2種類のシステムを使い作業を行っており、登録作業等重複する部分が払拭出来ていない状況である。もっと効率化・標準化を計り次のステップに進みたい。

人間ドック指導については、今後更に質の高い指導の提供と指導実施数を増やし、受診者の満足度向上、リピーターの確保、経年受診率の向上を目指していきたい。また、セミナー等に関しては、今後オンラインでの依頼が増えてくることが予想される。お客様のオーダーに対応できる環境づくりを構築し、質の高い情報発信ができるようにしていきたい。

(2)健康栄養課

<概 要>

健康栄養課は、第一健康栄養係と第二健康栄養係の2係がある。

- ・第一健康栄養係・・・人間ドック、外来保険診療などの個別栄養相談業務を中心に行っている。
- ・第二健康栄養係・・・特定保健指導や健康セミナー、各種のメディア対応などの業務を中心に担当している。人間ドックの食事「日赤健康薬膳」の毎日の提供は、第二健康栄養係の調理員により行っている。

<動 向>

令和3年度も昨年度同様コロナ禍の中、各種健康教室、セミナー等については縮小や中止が続いている。状況の長期化の中、感染対策を行った少人数型・オンデマンド型の配信など、セミナー、教室の形も変化が現れており柔軟な対応が必要とされている。栄養（レシピ）動画については、総合企画課のサポートを受けながら、視聴者の作りやすさ、簡便さを念頭に置き作成した（1動画1分以内）。

特定保健指導について令和3年度は、今までの取り組みに加え、受診者の待ち時間が長く実施が低くなりがちだった1日ドック消化器コースの受診者の待ち時間を利用し、保健看護課と協力して開始した。

人間ドックの食事「日赤健康薬膳」の提供については、健康を大切にする食事のコンセプトは受け継ぎつつ、器や盛り付け、品数を見直し、お客様満足度向上のため質の改善を目指した。

<成 果>

人間ドック業務	1日人間ドック健康相談	4,621人
	2日人間ドック 栄養問診・栄養相談	2,462人
食事対応	食事提供数	35,757食
	アレルギー等特別食対応	142食
外来業務	外来栄養食事指導	159件
健康支援事業	料理教室（センター主催）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
	各種メディア対応（テレビ、雑誌など）	
	健康セミナー、健康講演会（職員派遣）	

<課 題>

特定保健指導初回面談利用率向上のため、原因分析を進め対策を講じる必要があると感じている。

健康セミナー等外部事業については新型コロナウイルス感染症の長期化によりニーズも変化しており、オンライン等を利用した健康情報の発信方法を確立できるよう、また、栄養情報の発信としてのSNSの活用の充実を関係各課と検討していきたい。

「日赤健康薬膳」については、より魅力的な食事を皆様に提供できるよう、今後も受診者サービス向上の面からも検討を重ねていきたいと考えている。

人間ドックの食事 ～ 日赤健康薬膳 ～

人間ドックの食事は「日赤健康薬膳」と名づけている。「医食同源」の考えのもと、食材の持つ特性を生かしながら季節やからだに合った食品や調理法を選び、体調維持や病気の予防に役立つ健康料理を目指し、管理栄養士が献立を作成している。食事の提供においては、受診者がレストランを訪れてから配膳し、適温でおいしく食べていただけるよう心がけている。

日赤健康薬膳は、体験型の健康教育と位置づけており、家庭の中にも取り入れていただけるよう献立表をレストランひごろっか入り口で配布。また、QRコードなどを利用した配信も行っている。

<日赤健康薬膳の食事のポイント>

- ① 食事量は40～50歳代の事務系の仕事に従事する男性（1食700kcal程度）にあわせた食事量
- ② 新鮮な食材の持ち味や自然のだしの旨味を生かした味付けで、1食の食塩相当量は3g以下
- ③ 主食は食物繊維やビタミン類の多い、七分つき米や麦などの雑穀を使用
- ④ 不足しがちなビタミン、ミネラルを多く含む野菜、海草、きのこなどを1日の半分以上取れる
- ⑤ できる限り地産地消（県産）、国産のものを使用

<2021年 4月～6月献立>

昼食 (月・水・金曜)	昼食 (火、木、土曜)	夕食
<ul style="list-style-type: none">・麦ごはん・南関あげのお味噌汁・豚肉とカラフル野菜の 塩麹グリル・魚の唐揚げ 香味ソースかけ・甘酒サラダ・長芋の塩昆布ナムル・青菜の磯辺和え・白玉スイーツ 桜風味のシロップ	<ul style="list-style-type: none">・八穀ごはん・パプリカとにんじんの ポタージュ・バジルレモンチキン・揚げない鮭コロッケ・旬菜サラダ・ラタトゥイユ風煮・淡雪ヨーグルト	<ul style="list-style-type: none">・七分つきごはん・えびしんじょうのお吸い物・キャベツしゅうまい・白身魚のポワレ みそソース仕立て・あんかけ茶碗蒸し・じゃがいものガレット・切干大根と野菜のかき揚げ・紫キャベツと おまめのマリネ・ガトーフショコラ フルーツ添え
熱量合計 635kcal 食塩相当量 3.0 g	熱量合計 725kcal 食塩相当量 2.5 g	熱量合計 765kcal 食塩相当量 3.0 g

<2021年 7月～9月献立>

昼食 (月・水・金曜)	昼食 (火、木、土曜)	夕食
<ul style="list-style-type: none">・麦ごはん・焼きなすのおすまし・梅味噌焼き・焼き鮭のおろしかけ・もずくの酢の物・かぼちゃのごま和え・オクラとえのきの和え物・白玉スイーツ 生姜シロップ	<ul style="list-style-type: none">・八穀ごはん・夏野菜のコンソメスープ・タンドリーポークカレー・白身魚のチーズフライ・旬菜サラダ 生姜ドレッシング・ジャーマンポテト・ミルクココアゼリー	<ul style="list-style-type: none">・七分つきごはん・豆腐のごま冷汁・ハンバーグの夏野菜ソース・鯛のとろろ蒸し・チンゲン菜の煮びたし・甘酢漬け・ニラチヂミ・ゴーヤのサラダ・ずんだ葛餅
熱量合計 615kcal 食塩相当量 3.0 g	熱量合計 710kcal 食塩相当量 2.8 g	熱量合計 705kcal 食塩相当量 3.0 g

<2021年 10月～2022年1月>

昼食 (月・水・金曜)	昼食 (火、木、土曜)	夕食
<ul style="list-style-type: none">・八穀ごはん・白菜とえのきの味噌汁・塩麹肉じゃが ごま風味・魚のバターポン酢・甘酒なます・青菜と南関あげのお浸し・野菜の揚げ物 ～天草の塩風味～	<ul style="list-style-type: none">・麦ごはん・キャロットスープ・鶏肉の香草パン粉焼き・鮭のソテー ハニーマスタードソース・青菜の カッターチーズ風・ビーンズサラダ・フルーツゼリー	<ul style="list-style-type: none">・七分つきごはん・お吸い物・揚げない鶏天 ～舞茸の天ぷら添え～・魚のコチュジャン焼き・季節野菜のせいり蒸し・長芋の磯辺焼き・アーモンド和え・たたきごぼう バルサミコ風味・抹茶ゼリー
熱量合計 690kcal 食塩相当量 2.9 g	熱量合計 685kcal 食塩相当量 2.7 g	熱量合計 695kcal 食塩相当量 3.0 g

<2022年 2月～2022年 5月献立>

昼食 (月・水・金曜)	昼食 (火、木、土曜)	夕食
<ul style="list-style-type: none">・麦ごはん・あおさのみそ汁・豚肉のみぞれ煮あんかけ・サワラの西京焼き・ミモザサラダ・にんじんとくるみの きんぴら・長芋の黒酢和え・わらび餅	<ul style="list-style-type: none">・八穀ごはん・キャベツとベーコンの スープ・オイマヨチキン・サケのオニオンソース・パプリカのチーズマリネ・ハニーマスタードポテト・あずきミルクゼリー	<ul style="list-style-type: none">・七分つきごはん・若竹汁・焼きスコッチエッグ・タイのソテー 木の芽クリームソース・洋風茶碗蒸し・野菜のおかか煮・春キャベツロール・ジンジャージュレサラダ・ピーチゼリー
熱量合計 655kcal 食塩相当量 3.0 g	熱量合計 675kcal 食塩相当量 2.9 g	熱量合計 720kcal 食塩相当量 3.0 g

(3)地域産業保健課

<概 要>

地域産業保健課は、企業や地域の健康づくり支援として特定保健指導や健康診断後の事後指導、保険者と連携したデータヘルス事業、健康講話、団体の健康支援を目的に産業医と連携した産業サポート事業を担っている。

<動 向>

令和2年度に続きコロナ禍の影響が講演やセミナー、出張型の特定保健指導などで見られたが、健康診断後の事後指導等はコロナ禍以前に戻りつつある。令和3年度もアクリル板や密の回避等依頼団体側の協力を得て感染対策を行いながら面談を実施した。産業サポート業務ではメンタル等の不調者や長時間業務者の面談が多い印象を受けた1年であった。コロナ禍による業務負荷や、仕事・生活スタイルの変化などの影響も一因と考えられる。健康経営では優良法人取得を目指す事業所もあり、申請のサポートや健康づくりの提案等を行った。今後も団体全体の健康増進を意識した健康経営は広がっていくものと思われる。施設内健診での特定保健指導では、多くの方に利用勧奨ができるように関連部署と流れ等の検討を行った。出張型の特定保健指導では令和2年度に続き ICT 化の要望が増えており、今後も保健指導等の支援方法として ICT 化が進んでいくと考えられる。

<成 果>

施設内健診の特定保健指導では、検査の流れ等を検討し受診勧奨レベルの方やBMI 対象者への働きかけを強化することで、受診勧奨者やBMI 対象者の面談実施につながった。また血液検査結果の確認方法も変更することで、受診者の待ち時間減少や業務の効率化を図ることができた。

産業サポート事業では新たに契約を結んだ団体もあり、全部で 51 団体となった。令和3年度はメンタルヘルスや両立支援に関する産業医面談が増加した。急を要する面談依頼も多く、時間を空けずに実施できるように医師の業務調整に力を注ぐことで、時期を逸することなく支援に繋がった。

<課 題>

産業サポートサービス事業における来所型医師面談はコロナ禍などの環境要因も重なり、今後も増加するものと思われる。事業場外健診機関であるが、必要な支援がリアルタイムに提供できるように各課との連携強化を行いたい。団体の健康づくりには定期的な関わりが必要なため、今後も団体のニーズを確認しながら継続的な支援を行うとともに、今後、健康経営の取り組みを始める事業所へはサポートをしていきたいと考える。特殊健康診断も対象物質の増加や環境測定強化など働く人の健康管理に向けて変化している。国の動向に注視し、情報収集を行い事業所へ情報提供を行いたい。また、出張型の特定保健指導や保健相談では ICT 化を進めているため、今後は実施をしながら、より良い支援方法や媒体などを改善、検討していきたいと考えている。

5. 事務局

(1) 総務課

<概要>

- ・人事係・・・職員の人事、給与、労務管理、研修、福利厚生、賞罰、内規
- ・庶務係・・・職員の出張、文書、宿日直、諸報告・届出、文書管理、医師確保・調整、各種行事、防火防災、熊本県健康管理協会事務局

<動向>

- ・業務改善活動の継続
- ・省力化可能な業務の洗い出しと業務の効率化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対応

<成果・認定>

- ・一般社団法人日本病院会及び公益社団法人日本人間ドック学会「人間ドック・健診施設機能評価」施設認定更新
(認定期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日)

<課題>

- ・安定した医師の確保並びに診療体制の整備
- ・働き方改革実現のためのDX推進
- ・健康経営推進のためのコミュニケーションの活性化と目標管理
- ・将来を担う人材の育成
- ・Withコロナ時代における新しい働き方の導入

(委員会)

- 防火・防災対策委員会（不定期） 防火防災管理の徹底、火災・地震などによる人的・物的災害の軽減
- 安全衛生委員会（月1回） 労働安全衛生法に基づく事項の調査・審議
- 個人情報保護委員会（不定期） 個人情報の保護・管理に関する事項の審議・検討
- 教育研修推進委員会（不定期） 職員教育、研修を統括し、職員の資質の向上を図る

<事務局>

一般財団法人 熊本県健康管理協会

理事長： 小山 和作

疾病予防、治療及び健康管理について各種活動を行い、県民の健康と福祉の増進に貢献することを目的として活動を行っている。

【主な事業内容】

- (1) 保健衛生・福祉の分野で功績のあった者に対する顕彰事業（河津寅雄賞）
- (2) 一般市民に対する健康相談事業（定期的な電話健康相談）

【事業報告】

- 令和3年6月15日 第1回 評議員会（文書審議）
- 令和3年6月28日 第1回 理事会（文書審議）
- 令和3年8月19日 河津寅雄賞選考委員会
- 令和3年11月11日 臨時理事会・評議員会／第25回河津寅雄賞授賞式

(2)会計課

<概 要>

会計係と用度施設係の2係から構成されている。

<成 果>

当センターの医療機器・設備等においては、計画的に機器の更新を進めている。令和3年度は、超音波検診車1台、胸部X線撮影装置1台、超音波診断装置3台（腹部用2台、心臓用1台）、上部消化管汎用ビデオスコープ3本、運動負荷検査用多機能心電計2台などを更新した。

また、従来、事前資料（問診票等）、健診結果は手作業により封入してきたが、事務作業の大幅な削減と人為的ミスの防止、ひいては作業スタッフにおける心理的負担の軽減を図るべく、封入封かん機と郵便料金計器を導入した。

(委員会)

●購買委員会（令和3年11月30日）物品の購入にかかる機種選定理由及び要望事項等の審議・検討

(3)事業推進課

<概要>

人間ドックや健康診断の営業活動を第一職域推進係・第二職域推進係・地域推進係の3係で行っている。

- ・第一職域推進係・・・共済組合・健康保険組合など加入事業所への推進業務
- ・第二職域推進係・・・協会けんぽ加入事業所への推進業務
- ・地域推進係・・・市町村の住民健診についての推進業務

令和2年12月に一般財団法人西日本産業衛生会と作業環境測定に関する業務提携を交わし、特殊健診と作業環境測定を併せた営業活動を行った。

令和3年度 健診・保健事業担当者研修会

当センターにおいて、健康診断を利用されている各種団体（共済組合・健保組合・協会けんぽ・国保・各市町村役場）の健康管理担当者の方々を対象として、今後の健康事業への取り組みの一助となりうる医療や保健事業に関する情報を提供した。また当センターの業務紹介や提案も行っている。令和3年度は昨年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてWEB配信(ビデオ視聴)で実施した。

開催日時 令和4年2月1日(火)～2月18日(金)

開催場所 WEB配信(ビデオ視聴)

プログラム

- | | |
|-----------|---|
| I 挨拶 | 日本赤十字社熊本健康管理センター 所長 吉田 稔 |
| II 特別講演 | 「高齢社会における骨粗鬆症とサルコペニア、フレイル、ロコモ」
熊本大学 大学院 生命科学研究部 整形外科学
教授 宮本 健史 先生
座長 日本赤十字社熊本健康管理センター 診療部副部長 窪田 健一
*当センターの取り組み
骨密度 自覚し 延ばす 健康寿命
ロコモ予防体操 ～すね・ふくらはぎの強化～
もっと手軽に！フレイル予防 ～食べて元気に～ |
| III 情報提供 | 認知機能検査（あたまの健康チェック）の現状
FIB-4 index（肝臓検査）について
特殊健康診断と作業環境測定について
一般財団法人 西日本産業衛生会 環境測定センター 熊本営業所
所長 田口 信康 氏 |
| IV 検診の有用性 | 1) 胃部 X線
2) マンモグラフィ
3) 膀胱超音波
4) 心臓超音波 |
| V 事業紹介 | 今年度の取り組み・次年度に向けての取り組み
リフレッシュタイム
学会発表 |

(4)業務管理課

<概 要>

人間ドック管理係と外来管理係の2係で構成され、安心して当センターを受診していただけるよう丁寧な対応と受診者に寄り添った温かい対応を心がけ、各課と連携し受診者サービス向上と業務改善に取り組んでいる。

- ・人間ドック管理係・・・受診者の受付・案内、検査変更時の対応、料金の説明、宿泊案内等、人間ドック管理業務全般。
- ・外来管理係・・・人間ドック・各種健康診断後の再検査対象者への案内および予約、受付、会計、保険請求業務等、医療事務全般。

<動 向>

人間ドックでは、前年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり受診者数が減少傾向にあったが、ワクチン接種等の感染症対策や前年度までの受診控えにより、今年度は増加傾向となった。

また、感染症対策の一環として、各受付ブースにアルコール消毒液を設置、検査の内容で案内時間を分け、別階の待合フロアへご案内し混雑回避を図った。加えて、展望浴場やフロア内に配置していた新聞、雑誌類は廃止・撤去し、代わりに受診者サービスとして、無料のWi-Fiや雑誌の読み放題サービス(電子書籍)を導入した。

外来診療では、新たになんよろず相談室を設置し、センターでの健診・人間ドック受診履歴がある方に向けたセカンドオピニオンの場として専門医が相談に応じている。

<成 果>

人間ドック受診者数の実績については28～30ページ、外来受診者の実績については46ページ参照。

<課 題>

- ・感染症対策も兼ねた新たな受付方法の検討
- ・身体の不自由な方が更に安心して受診できる体制作り
- ・日本語話者以外の方への柔軟な対応

(委員会)

- 人間ドック連絡会議(月1回)
- 医療安全管理委員会(月1回)
- 人間ドック流れ部会(不定期)
- 人間ドック事業検討委員会(不定期)
- 保険診療委員会(不定期)

(5)健診管理課

<概 要>

健診管理係と車輛管理係の2係で構成され、施設内、施設外健診を安心して受診していただけるよう各課と連携し、受診環境の整備と健診業務の改善に取り組んでいる。

- ・健診管理係・・・施設内・施設外健診における受診者の受付・案内、検査変更時の対応、料金の説明等、健康診断管理業務全般。
- ・車輛管理係・・・健診車輛運転業務、健診車輛および公用車の整備・安全管理業務

<課 題>

今後、受診者数を確保しながら受付時間の細分化や、健診会場のレイアウトなど工夫し感染対策だけでなく快適な受診環境を整える。

また、施設内、施設外健診共に ICT を積極的に導入し業務の効率化を図るよう検討する。

(6)総合予約管理課

<概 要>

総合予約管理課は人間ドック予約係と健診予約係の2係で構成されている。主に人間ドック、施設内・施設外健康診断の予約日程調整、資料発送、電話による予約・お問い合わせ対応等の業務を行っている。

<動 向>

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染者拡大に伴い、県民にまん延防止等重点措置の要請が発令されるなど、令和2年度から引き続き感染者の増加と減少を繰り返す状況であったがワクチン接種が進み、館内設備及び職員の感染防止対策、受診者の入館時には検温及び手指消毒、マスク着用の徹底をお願いするなど安心して受診していただける環境を整えたこともあり、受診控えによる予約のキャンセルや保留は減少した。1日ドック予約者数で比較すると令和2年度は4月が1,379名、5月1,269名であったが令和3年度は4月1,720名、5月1,665名と新型コロナウイルス感染症発生前の状況に回復してきている。また、減少していた高齢の方向けのシニアドックの予約も増加した。

また、令和3年3月からSMS（ショートメールサービス）による日程の再通知を開始した。

人間ドックでは「日程忘れ」、「理由不明（連絡なし含む）」などによる当日キャンセル者が令和元年度では576名発生したが、令和3年度では357名に減少した。施設内健康診断においてもキャンセル減少傾向にあり、理由不明を含めてではあるが一定の効果があつたと思われる。

<課 題>

近年、パソコンやスマートフォンを使ったインターネット予約が一般的になってきている。電話と比べて細かい要望が伝えにくいなどのデメリットの部分もあるが24時間受付、待ち時間がない、予約状況が一目で分かるなどのメリットも多くお客様の満足度向上が期待できること、またスタッフの電話対応時間も減り業務の効率化にも繋がるため検討を進める。

また、令和4年4月に自動封入封かん機を導入したことから資料発送などの手作業で行っていた業務の効率化を進めていく。

(7)情報管理課

<概 要>

情報管理課は結果管理係とシステム管理係の2係で構成されている。

- ・結果管理係・・・人間ドック後日結果票発送、施設内・外の健康診断結果の入力、結果票作成・発送、健診等結果電子媒体作成・発送、結果の再発行、画像レプリカの発送
- ・システム管理係・・・システムの導入・開発・運用並びに職員が使用するPCやアプリケーションの管理などを行っている。また、近年は業務におけるインターネットの利用が必須となり、情報に対する脅威も増大していることから、情報セキュリティに対する職員の教育、対策等を行っている。

<動 向>

1) システム関連

- | | |
|-----------|------------------------|
| 令和3年4月 | 新健診システム「健診ヘルパー」稼動 |
| 令和3年9月18日 | 全社統合情報システム導入 |
| 令和4年1月 | グループシステム更新 |
| 令和4年2月 | 保険資格情報のオンライン資格確認システム導入 |

2) 統計・実績報告

- | | |
|---------|----------------------|
| 令和3年4月 | 地域保健・健康増進事業報告 |
| 令和3年4月 | 日本赤十字社 医療施設等事業概要調査 |
| 令和3年6月 | 全国労働衛生団体連合会 会員機関実勢調査 |
| 令和3年8月 | 予防医学事業中央会 健診各種調査 |
| 令和3年10月 | 全衛連 機能評価 |
| 令和4年1月 | 全衛連 新型コロナ調査 |
| 令和4年1月 | ドック学会 新型コロナ調査 |

(8)総合企画課

<概要>

第一企画係、第二企画係の2係で構成され、主にセンター全体の事業調整や新規事業の企画立案、研究会の事務局、外部からの調査・研究依頼の受入窓口、広報活動業務を行っている。

<動向・成果>

①事業調整

1) 令和4年度～6年度の事業方針および令和4年度の重点事項の作成

事務部長、事務部8課長、健康支援課長補佐で構成される管理部門会議を中心に、令和4年度～6年度の事業方針と令和4年度の重点事項を事業毎に検討・作成し、周知を図った。

2) 各事業検討委員会の設置

人間ドック、健康診断、健康支援の3事業において各事業の効率的かつ適正な運営を図るため、管理部門会議の諮問機関として各事業検討委員会を立ち上げた。

各事業検討委員会では、事業全般の運営、現状把握及び評価、事業の整備及び体制、検査項目や料金、収益などについて審議する。

3) 新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

令和3年8月から10月までの間に新型コロナウイルスワクチン職域接種において、外部との調整や接種体制の整備などを行った。

接種実績：延べ1,640件

②研究会事務局

【赤十字健康管理事業研究会】

赤十字の医療施設の健診事業関係者が一堂に会し、日本赤十字社が行う健康管理事業は今後どのようにあるべきかを考え、健康管理事業の現状と未来を探求することを目的としている。

9月に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院の担当で第26回赤十字健康管理事業研究会を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地での開催が難しくオンライン開催となった。

会長：吉田 稔（令和2年4月～）

事務局：日本赤十字社熊本健康管理センター総合企画課内

施設会員数：58施設

《事業内容》

- ・研究会の開催
- ・会員間の情報交換と連絡
- ・その他目的達成に必要な事業

《事業報告》

月 日	事業内容	開催場所
4月	理事会	文書審議
9月9日	第26回赤十字健康管理事業研究会	オンライン開催
3月7日、30日	運営委員会	オンライン開催

【九州沖縄健診施設研究会】

九州・沖縄地域の健診施設29施設で構成されており、健診を始めとした予防医学に関する研究を推進するとともに、会員相互の交流を通して広く意見交換を行い、健診施設の質向上を図ることによって予防医学の発展に貢献することを目的としている。

九州予防医学研究会として活動していたが、令和3年4月から九州沖縄健診施設研究会に改称し、7施設の幹事施設を中心に運営を行っている。令和3年度から2年間は当センターが代表幹事施設として事務局を担当している。

第23回九州沖縄健診施設研究会は新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型ではなくオンラインでの開催となった。

代表幹事施設長：吉田 稔（令和3年4月～）

施設会員：29施設 賛助会員：4団体

《事業内容》

- ・健診施設の質向上に資する研究大会（もしくは会員集会）やセミナー等の開催
- ・健診を始めとした予防医学に関する調査研究
- ・関係諸学会等との連絡及び協力活動
- ・会員相互の親睦、交流の推進
- ・その他目的に資する事業の開催

《事業報告》

月 日	事業内容	開催場所
7月15日	第1回幹事施設会	オンライン開催
9月17日	第2回幹事施設会	オンライン開催
11月11日	第3回幹事施設会	オンライン開催
2月26日	第4回幹事施設会	オンライン開催
2月26日	総会・第23回九州沖縄健診施設研究会	オンライン開催

③調査研究

研究課題	研究責任者	研究協力期間
・熊本県の住民を対象とした生活習慣と疾患に関する実態調査	熊本県立大学環境共生学部 食健康環境学専攻 教授 下田 誠也	令和3年8月
・気流閉塞と労働生産性低下（プレゼンティズム）および病欠との関連 ・喫煙および受動喫煙の有無と呼吸機能への影響評価	熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森 久光	令和3年9月～ 令和3年12月

④広報活動

対外的広報活動として、機関誌「ハイ健康です」を年3回発行。また、ホームページに加え、Facebook、YouTubeによる情報発信を行なっている。そのほか、事業実績報告書・各種チラシや各種パンフレットの作成をしている。テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材依頼及び原稿依頼に関しては受入窓口として随時対応している。

1) 広報作業部会

各課から部会員を選任し、機関誌「ハイ健康です」や事業実績報告書の作成、Facebook 配信において掲載内容の検討や原稿チェックなどを中心に活動している。

広報作業部会開催日：令和3年6月23日、10月8日、令和4年2月21日 計3回

2) 広報誌等の発行

1. 年報（事業実績報告書）の発行

令和2年度事業実績報告書を作成し、関係機関へ配布及びホームページへ掲載している。また、各検査データについてもホームページに掲載している。

2. 機関誌「ハイ健康です」の発行

年3回定期的に発行し各行事、事業内容の紹介、健康に関する情報等を掲載している。

- ・大きさ A4判
- ・ページ数 8ページ
- ・発行部数 第153号 10,500部 令和3年5月1日発行
第154号 11,000部 令和3年9月1日発行
第155号 9,500部 令和4年1月1日発行
- ・配布先 人間ドック受診者、赤十字関係、事業所、市町村、共済組合、健康保険組合、優友クラブ会員、人間ドック・予防医学事業関連施設 等

3) イベント活動

例年、赤十字の活動について理解を深め、より身近に感じて頂くことを目的として、日赤熊本4施設合同で赤十字フェスタを開催していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

その他活動

1. 研究学会発表等一覧

月 日	学会名(開催地)	発 表 演 題	発 表 者
5月7日～ 9日	第46回日本超音波 検査学会 学術集 会 (WEB)	超音波検診における胆道癌抽出の工夫	田村 千穂
5月15日～ 16日	第70回日本医学検 査学会 (WEB)	当センターの腹部超音波検査で経験した偶発病 変について	東 亜紀
5月15日～ 16日	第46回日本乳腺甲 状腺超音波医学会 学術集会 (WEB)	乳腺超音波検査にて発見された非腫瘍性病変の 検討	久保 美喜
6月4日～ 6日	第60回日本消化器 がん検診学会総会 (WEB)	腹部超音波判定マニュアルが効率的な病診連携 を可能にした3症例	小山 大樹
9月10日～ 24日	第62回日本人間ド ック学会学術大会 (WEB)	コミュニケーションスキルを活用した受診者満 足度向上への取り組み～超音波検査時における ロールプレイ研修～	竹本 京子
10月3日	日本超音波医学会 第31回九州地方会 学術集会 (WEB)	健診腹部超音波検査で発見された悪性疾患の検 討	大町 佳子

2. 論文・著書

論文名	掲載誌	著者
令和3年度 厚生労働省委託事業 がん総合 相談に携わる者に対する研修事業	一般社団法人 日 本サイコオンコロ ジー学会 令和4 (2022)年3月 事業報告書	吉田 稔、他
Association Between Airflow Limitation and Carotid Intima-Media Thickness in the Japanese Population	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2021 Mar 19;16:715-726. doi: 10.2147/COPD.S291 477.	Kazuhiko Watanabe 1, Ayumi Onoue 2, Hisamitsu Omori 2, Kenichi Kubota 3, Minoru Yoshida 3, Takahiko Katoh 1

3. 職員研修

月 日	研 修 会 名
4月1日～2日	日赤熊本新規採用職員研修会（病院）
4月5日	新規採用職員研修会（5Fホール）
1月11日～3月25日	感染管理職員全体研修会（実技・手指衛生/嘔吐物処理）
1月13日～31日	個人情報保護に関する研修会（WEB配信）
2月21日～3月18日	ハラスメント研修会（WEB 配信）

4. 研修・見学等受入状況

(8件 31人)

月 日	団 体 名	内 容	人数
5月10日～7月21日	熊本大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻4年次生	撮影技術(X線・MRI・超音波)、 その他（患者さんへの対応、 他の医療関係者との関係等）	10
5月25日～26日	熊本保健科学大学保健科学部看護学科 4学次生	現場実習	4
8月30日～9月7日	熊本学園大学 社会福祉学部	現場実習	1
8月30日・9月2日	日本赤十字広島看護大学	現場実習	1
8月31日	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 予防医療センター	施設見学	3
11月1日～1月14日	熊本保健科学大学 医学検査学科 3学次生	臨地実習	6
12月6日	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 予防医療センター	施設見学	3
3月24日	公益財団法人熊本県総合保健センター	施設見学	3

<検査>

検査データ集計について

検査データ集計結果については、当センターのホームページ上に公開いたしますので、閲覧ならびにダウンロードにてご利用いただきますようお願い申し上げます。

日本赤十字社熊本健康管理センターホームページ (URL)

<https://www.kenkan.gr.jp> 概要→実績報告

令和3年度 事業実績報告書

発行 日本赤十字社熊本健康管理センター

所長 吉田 稔

〒861-8528

熊本市東区長嶺南二丁目1-1

TEL 096-384-3100 (代表)

FAX 096-387-8278

E-mail kenkan-info@kumamoto-kkc.jrc.or.jp

URL <https://www.kenkan.gr.jp/>

令和4年6月